

2024 年間学習予定表

3年生

1年間の学習予定です。
これを参考にして学習計画を立て、学習に励みましょう。
定期考査の範囲については、必ず事前に確認してください。

愛知県立旭野高等学校

3年生シラバス目次

論理国語	-----	1
古典探究 文型	-----	2
古典探究 理型	-----	4
日本史探究 文型	-----	6
世界史探究 文型	-----	8
発展日本史 文型	-----	9
発展世界史 文型	-----	10
倫理	-----	11
政治経済 文型	-----	12
地理探究 理型	-----	13
政治経済 理型	-----	14
数学ア 文型	-----	15
数学イ 文型	-----	18
数学ア 理型	-----	21
数学イ 理型	-----	24
化学基礎 文型	-----	28
物理 理型	-----	29
生物 理型	-----	31
体育	-----	32
英語コミュニケーションⅢ	-----	33
論理・表現Ⅲ	-----	35
英語α	-----	37
情報Ⅰ	-----	39
総合的な探究の時間	-----	41

3年生論理国語 年間学習予定（シラバス）

1 学習の方法・予習のポイント

- ・現代文の学習のポイントは、授業の中でどれだけ考えられるかです。授業の中で問われる「言い換え」や「指示語の把握」などをしっかりと自ら考えることで確実に力がついていきます。
- ・現代文の基礎は「漢字」「語句の意味」「文学史」です。「漢字」「文学史」については1・2年生で学習してきました。「語句の意味」については、『語彙力と読解力をつける現代文単語』を使って、小テストを実施しながら学習します。考查の範囲にも含まれますので、計画的に学習してください。
- ・論理的文章は、文章の構成に従って内容を図式化したり、段落ごとの要約や主題の要約を書いてみたりすることで理解が深まり、力がつきます。
- ・文学的文章は、登場人物の心理を場面に合わせて押さえることがポイントです。自分で整理する習慣をつけましょう。

2 学習予定

期	単元	教材	学習のポイント	『プロGRESS』 『現代文単語』
一学期 中間	評論	「身体と出現」 平野啓一郎	<ul style="list-style-type: none"> ・論点を明確にしながらいまとめる。 ・現代文単語について文脈を通して理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『プロGRESS』 ③～⑦ ・『現代文単語』 評論編：「科学」、 「国際・情報」 小説編：第1章 「心理・思考」
一学期 期末	評論	「『可能性』としての貨幣」 西部 忠 「『資本』の出現」 大沢真幸	<ul style="list-style-type: none"> ・「資本主義」について書かれた文章を比較しながら読み、多面的に理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『プロGRESS』 ⑧～⑪ ・『現代文単語』 評論編：「文化」、 「社会・経済」 小説編：第2章 「態度・行為」
	評論	「娯楽について～「人生ノート」より～」 三木 清	<ul style="list-style-type: none"> ・行き過ぎた資本主義社会における娯楽とは何かについて筆者の考えを参考に、自分の考えを深める。 	
夏 休み		〈問題集の取り組み方〉 ・答えを考える際には、必ず本文にその根拠を求めながら解くこと。 ・基礎事項（漢字・語句の意味・文学史）については、この時期に復習を終えること。		<ul style="list-style-type: none"> ・『プロGRESS』 ⑫～⑳ ・『現代文単語』 1学期の範囲総復習
2学期 中間	評論	「権力にまつわる秘密」 萱野稔人 「メディアと民主化」 佐藤卓己 「ポストモダンと排除社会」 東 浩紀	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアと民主主義の関係について書かれた文章を比較しながら読み、多面的に理解を深める。 ・上記をふまえた上で、現代社会についての筆者の考えを参考にし、自分の考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『プロGRESS』 ㉑～㉕ ・『現代文単語』 評論編：「言語」、 「芸術・文学」 小説編：第3章 「人と人との関わり」
2学期 期末	評論	「木を伐る人/ 植える人」 赤坂憲雄	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい人と自然をつなぐモラル」を築きあげていくために具体的に何ができるかを、資料を活用しながら考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『現代文単語』 評論編： 「論理・思考」、 「自己・人間」 小説編：第4章 「性質・形容・時間」
冬 休み		・最後の追い込みとなるので、共通テスト型問題演習をしよう。この時も、ただ問題を解くだけではなく、答えの根拠をしっかりと指摘できるようにしておくこと！		
3 学期	全 範囲	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の総まとめとして、実践的な問題を通して筆者の考え方や、登場人物の心理を論理的に読みとる。 	

3 評価方法

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3つの観点について、定期考査や小テストなどの成績およびレポートや発表、ノートなどから総合的に判断して行います。

3年生古典探究（文型）年間学習予定（シラバス）

1 学習の方法・予習のポイント

〈古文〉	・ノートに本文を写し、古語を調べ、自分で口語訳をして授業に臨んでください。また、重要古語は整理しておきましょう。 ・自分で口語訳することで、ポイント（分からない箇所）を発見することが大切です。
	・文法事項についても、ノートの本文に記入し、常に確認するようにしましょう。
〈漢文〉	・漢文の基本は音読です。声を出して繰り返し読むことで、漢文のリズムをつかむことができ、自然と訓読ができるようになります。 ・本文を書き下し、句法に注意して口語訳をしましょう。 ・句形については、その都度『漢文必携』で確認するようにしましょう。
※自主学习教材は、計画的に学習しましょう。問題を解くことに意味があるのではなく、口語訳を自分でし、文法事項や句形などを確認することで力がつきます。しっかりと学習しましょう。	

2 学習予定

〈古文〉

学期	単元	教材	学習のポイント	考查範囲	古文アチーブ3 古文単語 (見出し語番号)
1 学 期	物語	『源氏物語』 「若紫」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をしましょう。 ・光源氏が生涯とともにする紫の上を初めて垣間見する場面を押さえるとともに、贈答歌を通して登場人物の心情を理解しましょう。 ・絶えず主語を確認しながら読み進めましょう。	中間 考查	古文アチーブ 3～6 古文単語 1～108
	物語	『源氏物語』 「須磨の秋」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をしましょう。 ・光源氏の不遇時代の話であることを念頭に読んで、源氏が何を心の支えにしていたかを考えましょう。 ・源氏や家来たちの心情を読み取りましょう。	期末 考查	古文アチーブ 7～10 古文単語 109～216
夏 休 み		〈問題集の取り組み方〉 ただ問題を解くだけでなく、口語訳や文法事項を確認しつつ学習を進めましょう。 〈基礎力に不安のある人〉 ・この機会に助動詞・助詞の復習をしましょう。 ・短く簡単な文章を品詞分解して、主語や大意をつかめるようにしましょう。	実力 考查	古文アチーブ 11～20 古文単語 敬語のまとめ 古典常識語	
2 学 期	随筆・ 評論	『徒然草』 「花は盛りに」 『玉勝間』 「兼好法師が詞のあげつらひ」 『無名抄』 「深草の里」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をしましょう。 ・兼好法師の自然や恋に関する考え方を理解しましょう。 ・兼好法師の考え方に対する宣長の批評が妥当かどうかを考えましょう。 ・和歌に対する多様な考え方を理解しましょう。	中間 考查	古文アチーブ 21～24 古文単語 217～327
	随筆・ 評論	『枕草子』 「宮に初めて参りたるころ」 『無名草子』 「清少納言」「紫式部」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をしましょう。 ・作者が宮仕えの中で感じたことや、作者に対する中宮の心遣いを読み取りましょう。 ・著名な二人の女流作家の人物像を理解しましょう。	期末 考查	古文アチーブ 25～28 古文単語 1～327
冬 休 み		最終追い込みです。共通テスト型の問題演習をしましょう。この時も、ただ問題を解くだけでなく、正確な口語訳を絶えず意識し、重要古語についても確認を繰り返しましょう。			
3 学 期	総 復 習	問題演習	○3年間の学習の総まとめとして問題演習に取り組みます。 ・文法力、語彙力、読解力を総動員し、内容の正確な把握を目指しましょう。 ・作品の文学史的背景を押さえましょう。 ・筆者の考え方を的確に把握しましょう。 ・登場人物のものの見方・感じ方に触れ、その心情を理解しましょう。	学年 末考 査	

〈漢文〉

学期	単元	教材	学習のポイント	考查範囲	漢文 アチーブ3	漢文 必携
1 学期	逸話	「不若人有其宝」 「不死之道」	○繰り返し音読し、漢文の言い回しに慣れましょう。 ○句法に注意して書き下し、口語訳をしましょう。 ・論理の組み立て、展開を理解しましょう。 ・登場人物の考え方の違いを理解しましょう。 ・筆者が何を言おうとしたのか理解しましょう。	中間 考 査	3～6	再読文字 否定
	史記	「張儀」	○諸子百家が活躍した戦国時代について理解を深めましょ う。 ○繰り返し音読し、漢文の言い回しに慣れましょう。 ○句法に注意して書き下し、口語訳をしましょう。 ・張儀の妻に対する発言が意味するものを考えましょ う。 ・張儀の人物像を理解しましょう。	期 末 考 査	7～10	疑問 反語 詠嘆 使役 受身
夏 休 み		〈問題集の取り組み方〉 ただ問題を解くだけではなく、口語訳や句形を確認しながら学習を進めましょ う。 〈基礎力に不安のある人〉 この機会に句形や語彙の復習をしましょう。		実 力 考 査	11～20	
2 学期	諸家の文章	「賢母辞拾遺」 「売柑者言」	○繰り返し音読し、漢文の言い回しに慣れましょう。 ○句形に注意して書き下し、口語訳をしましょう。 ・登場人物の心情を考えましょ う。 ・人々がなぜ聶以道の判決を「快」と評したのか考えま しょう。 ・「余」が返答できなかった理由を考えましょ う。 ・文章に込められた作者の意図を理解しましょう。	中 間 考 査	21～24	比較 仮定 抑揚 限定 累加 選択 願望
	史記	「荊軻」	○繰り返し音読し、漢文の言い回しに慣れましょう。 ○句法に注意して書き下し、口語訳をしましょう。 ・荊軻をはじめとする登場人物の心情を理解ましょ う。 ・秦王暗殺が失敗した原因を考えましょ う。	期 末 考 査	25～28	総復習
冬 休 み		最終追い込みです。共通テスト型の問題演習をしましょう。この時ただ問題を 解くだけではなく、正確な口語訳を絶えず意識し、句形や語彙についても確認を 繰り返しましょう。				
3 学期	総復習	問題演習	○3年間の学習の総まとめとして問題演習に取り組みます ・句形、語彙、読解力を総動員し、内容の正確な把握を 目指しましょう。 ・筆者の考え方を的確に把握しましょう。 ・登場人物のものの見方、感じ方に触れ、その心情を理 解しましょう。	学 年 末 考 査		

3 評価方法

- ① 定期考査の成績に、小テスト・授業のノート・課題などの内容や提出状況、および学習活動への参加の姿勢などを加味して評価します。
- ② 評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点から行います。

3年生古典探究（理型）年間学習予定（シラバス）

1 学習の方法・予習のポイント

<p>〈古文〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに本文を写し、古語を調べ、自分で口語訳をして授業に臨んでください。また、重要古語は整理しておきましょう。自分で口語訳することで、ポイント（分からない箇所）を発見することが大切です。 ・文法事項についても、ノートの本文に記入し、常に確認するようにしましょう。 <p>〈漢文〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢文の基本は音読です。声を出して繰り返し読むことで、漢文のリズムをつかむことができ、自然と訓読ができるようになります。 ・本文を書き下し、句形に注意して口語訳をしましょう。 ・句形については、その都度『漢文必携』で確認するようにしましょう。 <p>※自主学习教材は、計画的に学習しましょう。問題を解くことに意味があるのではなく、口語訳を自分でし、文法事項や句形などを確認することで力がつきます。しっかりと学習しましょう。</p>

2 学習予定

学 期	教 材	学習のポイント	古典アチーブ3 範囲	古文単語 351 範囲	漢文必携 範囲
1 学 期 中 間	<p>〈漢文〉 「不若人有其宝」</p> <p>〈古文〉 『源氏物語』 「若紫」</p>	<p>○繰り返し音読し、漢文の言い回しになれましょう。 ○句法に注意して書き下し、口語訳をしましょう。 ・宋国の長者の解説から作者の主張を読み取りましょう。</p> <p>○古語の意味、文法事項を確認して、正確な口語訳をしましょう。 ・『源氏物語』は主語の省略が多く見られます。絶えず、主語を確認しながら読み進めましょう。 ・将来光源氏の妻となる若紫との出会いの場면을味わいましょう。 ・重要古語が多くあるので、意味をしっかりとつかんでおきましょう。 ・源氏物語の文学史の流れにおける位置を理解しましょう。</p>	<p>〈古文分野〉 3・4 〈漢文分野〉 3・4</p>	<p>1～108 (p 38～ p 117)</p>	<p>再読文字 否定</p>
1 学 期 期 末	<p>〈漢文〉 「不死之道」</p> <p>〈古文〉 『大鏡』 「道長の豪胆」</p>	<p>○繰り返し音読し、漢文の言い回しになれましょう。 ○句法に注意して書き下し、口語訳をしましょう。 ・齊人・富人・胡人の考えの違いを理解しましょう。 ・筆者が何を言おうとしたのか理解しましょう。</p> <p>○古語の意味、文法事項を確認して、正確な口語訳をしましょう。 ・本文の展開に沿って道長の言動を整理し、その人物像を読み取りましょう。 ・兄たちの人物像を、道長の人物像と比較しながら理解しましょう。</p>	<p>〈古文分野〉 5・6 〈漢文分野〉 5・6</p>	<p>109～216 (p 118～ p 208)</p>	<p>疑問、反語 詠嘆、使役 受身</p>
夏 休 み	<p>〈問題集の取り組み方〉 ただ問題を解くだけでなく、口語訳や文法事項を確認しながら学習を進めましょう。 〈基礎力に不安のある人〉 助動詞・句法の復習をこの機会にしましょう。</p> <p>9月実力考査</p>	<p>〈古文分野〉 7～12 〈漢文分野〉 7～10</p>	<p>総復習</p>	<p>総復習</p>	

2 学 期 中 間	<p>〈漢文〉 「賢母辞拾遺」</p> <p>〈古文〉 『徒然草』 「花は盛りに」 『玉勝間』 「兼好法師が詞の あげつらひ」</p>	<p>○繰り返し音読し、漢文の言い回しになれましょう。 ○句法に注意して書き下し、口語訳をしましょう。 ・登場人物の心情を考えましょう。 ・聶以道の判決の基準を考えましょう。 ・人々がなぜ聶以道の判決を「快」と評したのか考えま しょう。</p> <p>○古語の意味、文法事項を確認して、正確な口語訳をしま しょう。 ・兼好法師の自然や恋に関する考え方を理解しまし ょう。 ・近世の国学者の評論文を味わいましょう。 ・作者の、古典に対する合理的・実証的な考え方を理解しま しょう。</p>	<p>〈古文分野〉 13・14 〈漢文分野〉 11・12</p>	<p>217～327 (p 208～ p 297)</p>	比較 仮定 抑揚 限定 累加 選択 願望
2 学 期 期 末	<p>〈漢文〉 「売柑者言」</p> <p>〈古文〉 『無名抄』 「深草の里」</p>	<p>○繰り返し音読し、漢文の言い回しになれましょう。 ○句法に注意して書き下し、口語訳をしましょう。 ・文章に込められた作者の意図を理解しましょう。</p> <p>○古語の意味、文法事項を確認して、正確な口語訳をしま しょう。 ・和歌に対する多様な考え方を理解しましょう。</p>	<p>〈古文分野〉 15・16 〈漢文分野〉 13・14</p>	総復習	総復習
冬 休 み	<p>・最終追い込みです ・共通テスト型の問題演習をしましょう。この時も、ただ問題を解くだけでは なく、正確な口語訳を絶えず意識しましょう。</p>				
学 年 末	問題演習	<p>○3年間の学習の総まとめとして問題演習に取り組みま す。 ・文法力、語彙力、読解力を総動員し、内容の正確な把握 を目指しましょう。</p>			

3 評価方法

- ① 定期考査の成績に、小テスト・授業のノート・課題などの内容や提出状況、および学習活動への参加の姿勢などを加味して評価します。
- ② 評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点から行います。

令和6年度 3年文型 日本史探究 シラバス

教科(科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材名称等
日本史探究	4単位	3年文型	詳説日本史 (山川出版社)	新詳日本史、ゼミナール日本史 (ともに浜島出版) 詳述日本史史料集 (実教出版)、詳説日本史整理ノート (山川出版社)

到達目標 【学習指導要領】	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------------------	--

第3学年 (4単位)

	学習事項	学習内容及び評価のポイント (学習内容が十分に達成できているか)	評価方法
一 学 期	第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化 第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の安定 5 元禄文化 第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	<ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえ、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ・織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ・新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義を考察する。 ・幕藩体制確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から多面的・多角的に考察する。 ・17世紀後半～18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する ・幕藩体制安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。また、全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。 ・経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。また、儒学の特徴を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。 ・農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。また、幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。 ・江戸中期の洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。また、幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。 ・欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。また、近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ・化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。また、江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。 ・幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の掃討に至るまでの経過を理解する。 	提出物 授業での取り組み 1 学期中間考査 1 学期期末考査
二 学 期	第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。また、欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する土族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解するとともに、明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。 ・政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。また、大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。 ・東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。また、日露開戦に至る過程や戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 ・第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。また、第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などに関連させて考察する。 	

<p>二期</p>	<p>3 ワシントン体制</p> <p>第14章 近代の産業と生活</p> <p>1 近代産業の発展</p> <p>2 近代文化の発達</p> <p>3 市民生活の変容と大衆文化</p> <p>第15章 恐慌と第二次世界大戦</p> <p>1 恐慌の時代</p> <p>2 軍部の台頭</p> <p>3 第二次世界大戦</p> <p>第16章 占領下の日本</p> <p>1 占領と改革</p> <p>2 冷戦の開始と講和</p> <p>第17章 高度成長の時代</p> <p>1 55年体制</p> <p>2 経済復興から高度経済成長へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。また、民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。 日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。また、近代産業の発展にともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。 伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。また、義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。 労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。また、大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。 戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。また、社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。また、恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。 日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。また、第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。 第二次世界大戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。また、戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。 東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。また、連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。 独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。また、冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。 朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。また、消費革命による社会の変容と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。 	<p>提出物 授業での取り組み</p> <p>2学期中間考査 2学期期末考査</p>
<p>三期</p>	<p>第18章 激動する世界と日本</p> <p>1 経済大国への道</p> <p>2 冷戦の終結と日本社会の変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。また、高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。 冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。また、科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。 	<p>提出物 授業での取り組み</p> <p>学年末考査</p>

<p>【課題・提出物等】</p> <p>ゼミナール日本史、レポートなど</p> <p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>定期考査、課題・レポート、授業への取り組みなどから総合的に評価する。</p>

令和6年度 世界史探究 年間学習予定表（シラバス）

教科(科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材名称等
世界史探究	4単位	3年文型	山川出版「詳説世界史探究」	浜島書店「アカデミア世界史」

到達目標 【学習指導要領】	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------------------	--

第3学年（1単位）

月	進 度 (単元・章・項)	探 究 学 習 内 容	評 価 方 法	評 価 の ポ イ ン ト
一 学 期	第9章 大交易・大交流の時代 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	・「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのか。 ・産業革命により、社会システムがどのように転換し、その結果世界の国々の政治・経済・文化がどう変化したか。 ・帝国主義とはどのようなものか。	課題の提出 1学期中間考査	・大航海時代や清朝の時代の中国、主権国家などについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・ペアワークやグループワークを積極的に取り組んでいる。 ・世界史の流れを、背景や要因を踏まえながら、理解している。
	第12章 産業革命と環大西洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺 第15章 帝国主義とアジアの民族運動		課題の提出 1学期期末考査	
	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界	・2つの大きな世界大戦は、どのような経緯で起きたのか。また、どのような性格を持った戦争だったのか。 ・冷戦期にどのような出来事があり、冷戦終結後、どのように変化したか。 ・今日の世界は、どのような課題を抱えているか。	課題の提出 2学期中間考査 課題の提出 2学期期末考査	・2つの世界大戦や冷戦などについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・ペアワークやグループワークを積極的に取り組んでいる。 ・世界史の流れを、背景や要因を踏まえながら、理解している。
	問題演習・主題学習	・主題学習や問題演習を通して、世界史に対する理解を深める。	課題提出 学年末考査	・題学習や問題演習を通して、歴史認識を深め多角的・多面的に考察している。
	三 学 期			

【課題・提出物等】

ノート、課題、問題集など

【年間の学習状況の評価方法】

定期考査、課題・レポート、授業中の態度・ノートチェック、小テストなどから総合的に評価する。

令和6年度 3年文型 発展日本史 シラバス

教科(科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材名称等
発展日本史	1単位	3年文型		大学入学共通テスト対策 資料ヨミトリ日本史問題集 (山川出版社)

到達目標	日本史探究で得た知識を複合的に結びつけ、より幅広く深い知識を身につけるとともに、より多面的・多角的な思考力を伸ばし、主体的に社会的事象の課題解決に向けて歴史的な見方・考え方を働かすことができる資質・能力を身につける。
------	--

第3学年 (1単位)

	学習事項	学習内容及び評価のポイント (学習内容が十分に達成できているか)	評価方法
一学期	古代・中世に関する諸資料の解釈	<ul style="list-style-type: none"> ・文献、建造物、絵画、地図、写真、映像などの諸資料を読み取り、その資料がつくられた歴史的背景を考察する。 ・共通点のある複数の資料の時代比較などを行い、歴史的諸事象の歴史的変遷や、古代・中世の特色・特徴を考察する。 ・ペアワークやグループワークなどの協働を通して、多面的・多角的な考察や、歴史解釈を行う。 	提出物 授業での取り組み 1学期期末考査
二学期	近世・近現代に関する諸資料の解釈	<ul style="list-style-type: none"> ・文献、建造物、絵画、地図、写真、映像などの諸資料を読み取り、その資料がつくられた歴史的背景を考察する。 ・共通点のある複数の資料の時代比較などを行い、歴史的諸事象の歴史的変遷や、近世・近現代の特色・特徴を考察する。 ・ペアワークやグループワークなどの協働を通して、多面的・多角的な考察や、歴史解釈を行う。 	提出物 授業での取り組み 2学期期末考査
三学期	古代～現代の資料の解釈と社会的課題についての考察	<ul style="list-style-type: none"> ・文献、建造物、絵画、地図、写真、映像などの諸資料を読み取り、その資料がつくられた歴史的背景を考察する。 ・ペアワークやグループワークなどの協働を通して、多面的・多角的な考察を行い、社会的な課題の解決を具体的に検討する。 	提出物 授業での取り組み

【課題・提出物等】 ワークシート、レポートなど 【年間の学習状況の評価方法】 定期考査、課題・レポート、授業への取り組みなどから総合的に評価する。
--

令和6年度 発展世界史 年間学習予定表（シラバス）

教科(科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材名称等
発展世界史	1単位	3年文型	自主教材	なし

到達目標 【学習指導要領】	(1)世界史探究で得た知識を複合的に結びつけ、より幅広く、深い知識を身につける。 (2)世界史探究で得た思考力をさらに伸ばし、より多面的・多角的に考察・構想する力を身につける。 (3)歴史を「自ら探究するもの」ととらえ、知識・思考力等を深めていく態度を育む。
------------------	---

第3学年（1単位）

月	進 度 (単元・章・項)	探 究 学 習 内 容	評 価 方 法	評 価 の ポ イ ン ト
一 学 期	主に古代中世の資料を扱う。	文献・建造物・絵画・地図・写真・映像など様々な資料を通じて、その資料がつくられた歴史的背景を考察する。 共通点のある複数の資料を地域比較・時代比較させ、風土や民族性の違い、歴史の変遷などを考察する。	課題の提出 1学期期末考査	・基本的な世界史の流れを、背景や要因を踏まえながら理解している。 ・さまざまな資料を多角的に考察し、自分の考えを、適切に表現できる。 ・ペアワークやグループワークに積極的に取り組んでいる。
二 学 期	主に近現代の資料を扱う。	文献・建造物・絵画・地図・写真・映像など様々な資料を通じて、その資料がつくられた歴史的背景を考察する。 共通点のある複数の資料を地域比較・時代比較させ、風土や民族性の違い、歴史の変遷などを考察する。	課題の提出 2学期期末考査	・基本的な世界史の流れを、背景や要因を踏まえながら理解している。 ・さまざまな資料を多角的に考察し、自分の考えを、適切に表現できる。 ・ペアワークやグループワークに積極的に取り組んでいる。
三 学 期	古代から現代までの資料を扱う。	文献・建造物・絵画・地図・写真・映像など様々な資料を通じて、その資料がつくられた歴史的背景を考察する。 共通点のある複数の資料を地域比較・時代比較させ、風土や民族性の違い、歴史の変遷などを考察する。	課題の提出	・基本的な世界史の流れを、背景や要因を踏まえながら理解している。 ・さまざまな資料を多角的に考察し、自分の考えを、適切に表現できる。 ・ペアワークやグループワークに積極的に取り組んでいる。

【課題・提出物等】 レポートなど 【年間の学習状況の評価方法】 定期考査、課題・レポート、授業中の取り組みなどから総合的に評価する。

令和6年度 倫理(3年2単位) シラバス

教科	科目	単位	学年・類型	教科書名	発行書名
公民	倫理	2	3年	倫理	教研出版

教材

教科書、資料集、ワークノート(教科書準拠版) など

学習目標

人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究し、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

進捗計画

学期	単元	指導項目	評価規準
一学期	さまざまな人間の心のあり方 (教科書p.8~23)	1 発達の心理学 2 認知の心理学 3 人格の心理学 4 感情の心理学	<p>評価規準</p> <p>※()内は評定算出の際の比重 ※全ての学期について、以下の3観点を基に評価を行います。</p> <p>1 知識・技能(40%) 幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>【評価方法】 定期考査</p> <p>【学習方法】 ① 授業の中で疑問点を全て解消する。 ② ワークノートを中心に、問題演習を繰り返す。 ③ 日ごろから物事について深く考え、授業で習ったこととの関連を考える。</p>
中間	さまざまな人生観(教科書p.24~77)	○古代ギリシアの思想 1 哲学の誕生 2 ソクラテス 3 プラトン 4 アリストテレス 5 ヘレニズム時代の思想 ○キリスト教 1 古代ユダヤ教 2 イエスの教え 3 キリスト教の成立と発展 ○イスラーム 古代インドの思想と仏教 1 仏教以前の社会と思想 2 仏教の成立・展開 ○中国の思想 1 孔子と儒家の思想 2 儒教の展開 3 道家の思想	
期末	さまざまな倫理観・世界観(教科書p.78~147)	○理性への信頼 1 ルネサンス 2 宗教改革 3 モラリスト ○自然・科学技術と人間 1 近代科学の誕生 2 ペーコンとデカルト	
二学期		○個人・社会と自由 1 自然権と社会契約 2 カント 3 ヘーゲル ○民主社会の倫理 1 功利主義 2 実証主義と進化論 3 プラグマティズム 4 社会主義 ○現代思想の流れ 1 現代の思想の幕開け 2 現代の実存哲学 3 人間中心主義の問い直し 4 新たな他者の構築 5 あるべき社会を求めて ○現代社会と生き方	<p>2 思考・判断(40%) 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方について深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために、倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。</p> <p>【評価方法】 定期考査</p> <p>【学習方法】 ① 授業の中で積極的に発言、傾聴、議論を行う。 ② ワークノートを中心に、問題演習を繰り返す。 ③ ある主張に対し、どのような立場からなのか、その主張の背景は何かなどを考える習慣をつける。</p>
中間	国際社会に生きる日本人としての自覚 (教科書p.148~207)	○日本の風土と古代日本人の考え方 1 日本の風土と社会 2 日本神話の世界観 3 神話と倫理 ○仏教の受容と展開 1 外来思想の土着化 2 仏教の受容 3 仏教の展開 ○儒学の受容と国学の発達 1 儒学の受容と展開 2 国学の誕生 3 庶民の思想 4 幕末の思想 ○西洋思想の受容と近現代の日本の思想 1 啓蒙思想と民権論 2 国民道徳とキリスト教 3 近代的自我の模索 4 近代日本での哲学の誕生 5 大正デモクラシーの思想 6 昭和初期の思想 7 国際社会を生きる日本人	
三学期	現代の諸課題と倫理 (教科書p.208~236)	1 生命をめぐる諸課題 2 自然をめぐる諸課題 3 科学技術をめぐる諸課題 4 福祉をめぐる諸課題 5 文化と宗教をめぐる諸課題 6 平和をめぐる諸課題	<p>3 主体的に学習に取り組む態度(20%) 主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養い、多面的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会の人間としての在り方の自覚を深める</p> <p>【評価方法】 授業に対する取り組み 課題に対する取り組み</p> <p>【学習方法】 試験や受験をあまり意識せず少し気になる小さな知的的好奇心や問いを大切に育てる。</p>

令和6年度 政治経済(3年2単位) シラバス

教科	科目	単位	学年・類型	教科書名	発行書名
公民	公共	2	3年	詳述政治・経済	実教出版

教材

教科書、資料集、ワークノート(教科書準拠版) など

学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きるための資質・能力を養う。

進捗計画

学期	単元	指導項目	評価規準
一学期	現代日本の政治(教科書p.6～81)	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の基本原則 ・日本国憲法の基本的性格 ・日本の政治機構 ・現代日本の政治 	<p>評価規準</p> <p>※()内は評定算出の際の比重 ※全ての学期について、以下の3観点を基に評価を行います。</p> <p>1 知識・技能(40%) 現代の諸課題を考察するための概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、情報を適切に調べまとめている。</p> <p>【評価方法】 定期考査</p> <p>【学習方法】 ① 授業の中で疑問点を全て解消する。 ② ワークノートを中心に、問題演習を繰り返す。 ③ 日ごろから幅広いニュース等に触れ、授業で習ったこととの関連を考える。</p>
中間	現代日本の経済(教科書p.82～159)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済社会の変容 ・現代経済のしくみ ・現代経済と福祉の向上 	
期末			
二学期	現代日本における諸課題の探求(教科書p.160～173)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の自立と政府 ・防災と安心・安全な社会の実現 ・歳入・歳出両面での財政健全化 ・産業構造の変化と起業 ・食料安定供給と持続可能な農業 ・多様な働き方や生き方を可能にする社会 ・少子高齢社会における社会保障 	<p>2 思考・判断(40%) 現代の諸課題の解決に向けて、概念や理論を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、議論したりしている。</p> <p>【評価方法】 定期考査</p> <p>【学習方法】 ① 授業の中で積極的に発言、傾聴、議論を行う。 ② ワークノートを中心に、問題演習を繰り返す。 ③ ある主張に対し、根拠はあるのか、根拠は適切か、などを考える習慣をつける。</p>
中間	グローバル化する国際社会の諸課題(教科書p.174～235)	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の国際政治 ・現代の国際経済 	
期末			
三学期	国際社会の諸課題の探求(教科書p.236～247)	<ul style="list-style-type: none"> ・紛争の解決に向けた国際社会の取り組み ・グローバル化にともなう生活や社会の変容 ・イノベーションと成長市場 ・地球環境と資源エネルギー問題 ・国際経済社会の是正 ・持続可能な国際社会づくり 	<p>3 主体的に学習に取り組む態度(20%) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p> <p>【評価方法】 授業に対する取り組み 課題に対する取り組み</p> <p>【学習方法】 試験や受験を意識しすぎない。「ちょっと気になる」「これってなんだ?」という小さな知的好奇心を大切に育てる。</p>

高等学校地歴科 地理探究 シラバス

1 学習の到達目標

社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。

2 使用教科書・副教材

教科書：「地理探究」（二宮書店）、「標準高等地図」（帝国書院）
副教材：「新詳地理資料COMPLETE 2 0 2 4」（帝国書院）、「データブック オブ・ザ・ワールド」（二宮書店）

3 年間指導計画例

学期	月	授業時数	編配当数	編	節	項	学習内容とねらい	節配当数	考查範囲											
1 学期	4 月	9			第1章 自然環境	①地形	1 世界の地形と地形をつくる力 2 プレートの運動が地形におよぼす影響 3 地震と火山 4 造山運動と世界の陸地 5 河川がつくりだす地形 6 海岸にみられる地形 7 さまざまな環境で形成される地形	地形に関わる諸現象の規則性、傾向性や、人間による利用などについて理解する。地形の分布や成因などに注目して、「平野の地形」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	23 期 6 5 5 3 4	1 学期 中 期 末										
						②気候と生態系	1 水の循環と利用 2 海洋の循環 3 大気の大循環と気候 4 気候の地域性 5 植生と土壌	気候と生態系に関わる諸現象の規則性、傾向性や、気候の地域性などについて理解する。大気大循環のしくみや影響などに注目して、「気候の地域性」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。												
						③世界各地の自然と生活	1 世界の気候区分 2 熱帯の自然と生活 3 乾燥帯の自然と生活 4 温帯の自然と生活 5 寒帯と寒帯の自然と生活	世界各地の自然と生活に関わる諸現象の規則性、傾向性や、気候区分の方法などについて理解する。気候の特徴と人々の暮らしとの関係性に注目して、「各気候帯での人々の暮らし」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。												
						④日本の自然環境と防災	1 日本の地形 2 日本の気候 3 日本の自然災害と防災	日本の自然環境に関わる諸現象の規則性、傾向性や、自然災害などについて理解する。日本の自然環境と自然災害の関係などに注目して、「自然災害と防災」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。												
	5 月	10				⑤地球環境問題	1 環境問題に関する大観 2 持続する汚染 3 地球温暖化の現状 4 地球温暖化への対策	地球環境問題に関わる諸現象の規則性、傾向性や、持続可能な地球環境の開発のあり方などについて理解する。気候や環境の変化などに注目して、「気候変動の影響」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	4											
							第2章 資源と産業				17									
							①農林水産業	1 農業の諸条件 2 社会の発展と農業の変化 3 グローバル化・技術革新と農業 4 林業 5 水産業 6 食料問題					農林水産業に関わる諸現象の規則性、傾向性や、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。農林水産業の条件や変化などに注目して、「食料問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	6						
							②資源・エネルギー	1 社会の発展と資源の利用 2 世界の鉱産資源 3 世界のエネルギー資源とその課題 4 電力の利用と変化					資源・エネルギーに関わる諸現象の規則性、傾向性や、資源・エネルギー問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目して、「エネルギー資源の課題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。			4	2 学期 中 期			
	③工業	1 社会の発展と世界の工業化 2 工業の立地 3 工業地域の形成と変化 4 自動車工業の特徴と日本の海外生産 5 国際分業の進展と多国籍企業 6 工業生産のグローバル化に伴う諸課題	工業に関わる諸現象の規則性、傾向性や、工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。「工業生産のグローバル化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	6																
	④第3次産業	1 サービス経済化と社会の変化	第3次産業に関わる諸現象の規則性、傾向性や、サービス経済化の現状や要因、解決に向けた取組について理解する。産業構造の変化などに注目して、「サービス経済化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。			1														
	6 月								第3章 人・モノ・金のつながり	①交通・通信	1 世界を結ぶ交通 2 世界を結ぶ通信	交通・通信に関わる諸現象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。「交通と通信の課題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	7							
										②貿易・観光	1 世界を結ぶ貿易 2 世界と日本の貿易とその課題 3 世界を結ぶ資金の流れ 4 世界を結ぶ観光とその課題	貿易・観光に関わる諸現象の空間的な規則性、傾向性や、貿易・観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。貿易の構造や人・物・資金の流れなどに注目して、「経済連携」や「観光の多様化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。			3					
①人口				1 人口の推移と分布 2 人口構成と人口転換 3 人口移動 4 人口増加地域、減少地域の人口問題	人口に関わる諸現象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。人口の推移、分布、移動などに注目して、「少子高齢化」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。					5	2 学期 末									
②村落・都市				1 集落の成り立ちと機能 2 都市の成り立ちと機能 3 世界の都市・居住問題と解決への努力	村落・都市に関わる諸現象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。集落の機能や形態などに注目して、「世界の居住問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。	4														
7 月	12			第5章 文化と国家	①生活文化と言語・宗教			1 生活文化と地域 2 世界の衣服 3 世界の食生活 4 世界の住居 5 世界の言語 6 世界の宗教	生活文化や言語・宗教に関わる諸現象の空間的な規則性、傾向性や、民族問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。世界の衣食住や言語・宗教の地域性などに注目して、「生活文化の多様性」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。			4								
					②国家とその領域			1 国家の形成と領域 2 世界の民族・領土問題 3 日本の領土に関する問題 4 海洋国家としての日本 5 国際連合の役割と課題	国家とその領域に関わる諸現象の空間的な規則性、傾向性や、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。国家の特徴や国家の結びつきなどに注目して、「世界の民族・領土問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。					4						
					8 月					第1章 地域区分	1 地域区分の目的と方法 2 さまざまな地域区分 3 本書でとりあげる地域と考察方法					地域区分について理解し、現代世界が自然、文化、国家群、経済などの指標によって様々な区分ができることを習得できるように、それぞれの区分からわかる地域の特徴や区分によって把握できる地域の特徴を考察させる。	2			
						9 月	11									第2章 現代世界の諸地域			①中国	1 経済の改革开放による変化 2 経済発展を支える人口 3 経済発展を支える農業の地域性 4 経済・産業の発展と現代の生活 5 経済成長と国内外の課題 6 東アジアのなかの朝鮮半島 7 朝鮮半島の文化と経済発展 8 韓国の課題と国際関係
②朝鮮半島	1 東アジアのなかの朝鮮半島 2 朝鮮半島の文化と経済発展 3 韓国の課題と国際関係	韓国としての韓国について、自然や文化、歴史的背景、経済発展、都市・人口問題、貿易といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察、理解させる。	2																	
③東南アジア	1 東南アジアの成り立ちと多様な民族文化 2 自然環境と農業・食文化 3 工業化による発展と生活文化への影響 4 地域内外の経済関係と文化のつながり	経済発展の著しい東南アジアについて、歴史的背景や民族、自然、農業、都市問題、地域格差といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて文化と関係づけながら地域的特色を考察、理解させ、今後の発展の変化や、それに伴う日本や中国をはじめとする周辺地域との関係について探究させる。										3								
④南アジア	1 自然環境と人口 2 住民と文化 3 農業と農村 4 産業の発展とグローバル化	近年急成長するインドを中心とした南アジアについて、自然、人口、文化・生活、民族問題、農牧業、工業、国際的な経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察、理解させ、今後の発展や、それに伴う日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。			3															
9 月	10						⑤西アジア・中央アジア		1 多様な自然環境 2 民族と文化 3 資源開発の進展と生活の変化 4 地域格差と国際関係	乾燥帯に位置する西アジア・中央アジアについて、農牧業、イスラームの教えやそれに伴う生活、地域格差といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察、理解させる。	3			1 学期 末						
			10 月							⑥北アフリカ・サブサハラアフリカ					1 自然環境と農業 2 歴史と文化 3 産業と経済発展 4 地域格差と国際関係	広大な大陸に位置するアフリカについて、自然や農牧業、歴史的背景・民族、産業・社会構造、地域格差、国際関係といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて北アフリカ・サブサハラアフリカの二つの地域を対照的に着目して比較しながら地域的特色を考察、理解させる。	3			
												11 月				⑦ヨーロッパ			1 統合の背景としての文化の多様性 2 自然と農業の地域性と共通農業政策 3 エネルギー・工業と貿易、交通の変化 4 エネルギーと環境と課題	環インド洋地域の変化や世界各地への影響、日本が貢献できることを探究させる。地域統合の進んだヨーロッパについて、却てその歴史的背景、民族、自然、農牧業、工業とエネルギー、貿易と交通、経済格差といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを地域統合と関連づけながら地域的特色を考察、理解させ、今後の変化や、日本をはじめとする世界各国への影響について探究させる。
					12 月															⑧ロシア
1 月	4					⑨アングロアメリカ	1 自然環境の多様性と自然災害の特徴 2 社会の多様性と多文化社会 3 世界をリードする農業と産業 4 世界と結びつくアメリカ				広大な面積を持つアングロアメリカの2か国について、自然、歴史的背景、民族・文化、農業、鉱工業、世界との結びつき、都市・居住問題といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察、理解させる。今後、関係の深い日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。			4						
			2 月						⑩ラテンアメリカ	1 多様な自然環境と農業 2 混ざりあう民族、拡大する都市 3 鉱工業の移り変わり 4 地域内外との政治的・経済的関係	南北に長いラテンアメリカについて、自然、農業、歴史的背景と民族、社会問題、鉱工業、貿易、経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察、理解させる。						3	2 学期 末		
										3 月			⑪オーストラリア		1 自然と農牧業・鉱工業 2 多文化主義の社会と大都市の発達 3 世界との結びつき	南半球に位置する大陸国家オーストラリアについて、自然と産業、歴史的背景と民族・文化、都市、世界との結びつきといった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察、理解させ、日本をはじめとするアジアやオセアニアなど各国との結びつきの変化について探究させる。				
					4 月											⑫ニュージーランドと島嶼国			1 オセアニアのなかのニュージーランド	日本と同じ太平洋に面するニュージーランドとオセアニアの島嶼国について、自然、農業、歴史的背景と民族・文化といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察、理解させる。
5 月						⑬環太平洋								1 環太平洋地域の結びつきについて探究させる。					4	
			6 月						⑭現代日本に求められる国土像					1 2050年の日本の姿 2 テーマ① 自然と都市に強い国土をめざすには 3 テーマ② 産業の変化と持続可能な成長 4 テーマ③ 人口減少社会を活性化するためには 5 テーマ④ 多文化共生社会の実現をめざして 6 国土像の探究 → エネルギーの安定供給をめざして			各々での学習を基に、自然災害に強い国土、変化しつつある産業と持続可能な成長、人口減少社会の活性化、多文化共生社会の実現に関して、将来の日本の国土像について、日本がかかえる地理的な課題を生徒自らに発見させ、その課題を多面的・多角的に考察、探究させる。地理的技能を活かして資料を作成させるとともに、第1編で学んだ基本的な知識や、第2編で学んだ世界各地のさまざまな事例を活用して考察し、課題解決のための提言を行わせることによって、日本がかかえる地理的課題の解決の方向性や将来の国土像について展望させる。	4		

令和6年度 政治経済(3年3単位) シラバス

教科	科目	単位	学年・類型	教科書名	発行書名
公民	公共	3	3年	詳述政治・経済	実教出版

教材

教科書、資料集、ワークノート(教科書準拠版) など

学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きるための資質・能力を養う。

進捗計画

学期	単元	指導項目	評価規準
一学期	現代日本の政治(教科書p.6～81)	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の基本原則 ・日本国憲法の基本的性格 ・日本の政治機構 ・現代日本の政治 	<p>評価規準</p> <p>※()内は評定算出の際の比重 ※全ての学期について、以下の3観点を基に評価を行います。</p> <p>1 知識・技能(40%) 現代の諸課題を考察するための概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、情報を適切に調べまとめている。</p> <p>【評価方法】 定期考査</p> <p>【学習方法】 ① 授業の中で疑問点を全て解消する。 ② ワークノートを中心に、問題演習を繰り返す。 ③ 日ごろから幅広いニュース等に触れ、授業で習ったこととの関連を考える。</p>
中間	現代日本の経済(教科書p.82～159)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済社会の変容 ・現代経済のしくみ ・現代経済と福祉の向上 	
期末			
二学期	現代日本における諸課題の探求(教科書p.160～173)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の自立と政府 ・防災と安心・安全な社会の実現 ・歳入・歳出両面での財政健全化 ・産業構造の変化と起業 ・食料安定供給と持続可能な農業 ・多様な働き方や生き方を可能にする社会 ・少子高齢社会における社会保障 	<p>2 思考・判断(40%) 現代の諸課題の解決に向けて、概念や理論を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、議論したりしている。</p> <p>【評価方法】 定期考査</p> <p>【学習方法】 ① 授業の中で積極的に発言、傾聴、議論を行う。 ② ワークノートを中心に、問題演習を繰り返す。 ③ ある主張に対し、根拠はあるのか、根拠は適切か、などを考える習慣をつける。</p>
中間	グローバル化する国際社会の諸課題(教科書p.174～235)	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の国際政治 ・現代の国際経済 	
期末			
三学期	国際社会の諸課題の探求(教科書p.236～247)	<ul style="list-style-type: none"> ・紛争の解決に向けた国際社会の取り組み ・グローバル化にともなう生活や社会の変容 ・イノベーションと成長市場 ・地球環境と資源エネルギー問題 ・国際経済社会の是正 ・持続可能な国際社会づくり 	<p>3 主体的に学習に取り組む態度(20%) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p> <p>【評価方法】 授業に対する取り組み 課題に対する取り組み</p> <p>【学習方法】 試験や受験を意識しすぎない。「ちょっと気になる」「これってなんだ?」という小さな知的好奇心を大切に育てる。</p>

令和6年度 第3学年文型 数学ア シラバス

数学ア

○1学期

月	単 元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	数学C 第1章 ベクトル 第1節 平面上のベクトル とその演算 1 平面上のベクトル 2 ベクトルの和・差・実 数倍 3 ベクトルの成分	・平面ベクトルについて の概念や原理・法則を体 系的に理解することがで きる。 ・平面ベクトルにおける 事象を数学化したり、数 学的に解釈したり、数学 的に表現・処理したりす ることができる。	・平面ベクトルの構造な どに着目し、ベクトルを 利用して図形の性質や定 理を多面的に考察するこ とができる。 ・平面ベクトルを用いて 図形に関する問題を数学 的に考察し、問題解決の 過程や結果を振り返って 総合的・発展的に考察す ることができる。	・平面ベクトルにおいて 数学のよさを認識し積極 的に数学を活用しようと する態度で、粘り強く柔 軟に考え数学的概念に基 づいて判断することがで きる。 ・平面ベクトルにおいて 問題解決の過程を振り返 って考察を深めたり、評 価・改善したりすること ができる。
5	第2節 ベクトルと平面図 形 1 位置ベクトル 2 位置ベクトルと図形 3 ベクトル方程式	・空間ベクトルについて の概念や原理・法則を体 系的に理解することがで きる。 ・空間ベクトルにおける 事象を数学化したり、数 学的に解釈したり、数学 的に表現・処理したりす ることができる。	・空間ベクトルの構造な どに着目し、ベクトルを 利用して図形の性質や定 理を多面的に考察するこ とができる。 ・空間ベクトルを用いて 図形に関する問題を数学 的に考察し、問題解決の 過程や結果を振り返って 総合的・発展的に考察す ることができる。	・空間ベクトルにおいて 数学のよさを認識し積極 的に数学を活用しようと する態度で、粘り強く柔 軟に考え数学的概念に基 づいて判断することがで きる。 ・空間ベクトルにおいて 問題解決の過程を振り返 って考察を深めたり、評 価・改善したりすること ができる。
6	第3節 空間のベクトル 1 空間の点の座標 2 空間のベクトル 3 空間のベクトルの内積 4 位置ベクトル	・空間ベクトルについて の概念や原理・法則を体 系的に理解することがで きる。 ・空間ベクトルにおける 事象を数学化したり、数 学的に解釈したり、数学 的に表現・処理したりす ることができる。	・空間ベクトルの構造な どに着目し、ベクトルを 利用して図形の性質や定 理を多面的に考察するこ とができる。 ・空間ベクトルを用いて 図形に関する問題を数学 的に考察し、問題解決の 過程や結果を振り返って 総合的・発展的に考察す ることができる。	・空間ベクトルにおいて 数学のよさを認識し積極 的に数学を活用しようと する態度で、粘り強く柔 軟に考え数学的概念に基 づいて判断することがで きる。 ・空間ベクトルにおいて 問題解決の過程を振り返 って考察を深めたり、評 価・改善したりすること ができる。

○2 学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7 9 10 11 12	1. 式の計算(1) 2. 式の計算(2) 3. 1次不等式 4. 集合と命題 5. 2次関数、最大・最小(1) 6. 最大・最小(2) 7. 2次方程式と2次不等式 8. 2次関数の種々の問題 9. 三角比と図形(1) 10. 三角比と図形(2) 11. 図形と計量 12. データの代表値と散らばり 13. データの相関、仮説検定の考え方 14. 場合の数、順列 15. 組合せ 16. 確率(1) 17. 確率(2) 18. 図形の性質(1) 19. 図形の性質(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・式の四則計算、1次不等式を解くことができる。 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 ・2次および3次の乗法公式や因数分解の公式を適切に使える。 ・2次関数のグラフの特徴について理解している。最大値・最小値を求めることができる。 ・三角比の概念を理解し、正弦定理などを適切に使える。 ・データの特徴を的確にとらえられる。場合の数や順列・組み合わせ・確率を求められる。 ・図形の性質を的確にとらえ、辺の長さや角度を求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。 ・問題を解決する際に、すでに学習した計算の方法と関連付け、式を多面的に据えたり目的に応じて適切に変形することができる。 ・三角比を用いる方法やその性質をもとに、計量できる。 ・データの計算をしたり、表現したりできる。 ・場合に応じて、組合せや順列の考え方が使える。 ・図形の性質から、適切な判断をしたり、表現したりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数と式の考えを用いて考察する良さを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

3 学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2	実践問題 図形と計量、場合の数・確率	<ul style="list-style-type: none"> ・図形と計量、場合の数・確率について理解し、それらを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形と計量、場合の数・確率について考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

※評価の方法については、

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、定期考査を主とし、実課考査等を加味して評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、課題提出の状況を主とし、定期考査や授業に取り組む意欲を加味して評価する。

令和6年度 第3学年文型 数学Ⅰ シラバス

数学Ⅰ

○1学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	20. 式の計算, 二項定理 21. 恒等式, 不等式 22. 複素数と2次方程式の理論	不等式の証明を適切に記述することができる。 ②相加平均と相乗平均を用いて不等式を証明することができる。	①不等式の証明を通して、式を論理的に見ることができる。 ②数学Ⅰで実数まで拡張した数について、複素数までの拡張を考察することができる。	①事象を式と証明、方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。
5	23. 因数定理, 高次方程式 24. 点・直線・円 25. 曲線と直線	③複素数の四則演算の仕方を身に付けている。	③2次方程式の解と係数の関係を用いて、ある2数を解にもつ2次方程式を考察することができる。	②問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
6	26. 軌跡と領域 27. 三角関数(1) 28. 三角関数(2)	④2次方程式の解の意味を理解し、解の求め方についての基礎的な知識を身に付けている。	①座標平面の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察することができる。	
7	29. 指数・対数関数(1)	①図形と方程式・三角関数の考えについての基本的な概念や原理法則を体系的に理解することができる。 ②事象を数学化したり、数学的に解釈したりする技能を身に付けることができている。 ③事象を数学的に処理したり、表現したりすることに関する技能を身に付けている。	②式を用いて、与えられた条件を満たす方程式を求め、それがどのような図形になるかを考察することができる。	

○2学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7	30. 指数・対数関数(2) 31. 導関数と接線	①指数関数・対数関数・微分積分の考えについての基本的な概念や原理法則を体系的に理解することができる。	①指数関数・対数関数についてそれぞれのグラフの性質を理解し、数の大小関係を判定したり指数・対数を含む方程式や不等式について考察することができる。微分係数や導関数を利用して、関数の値の増減、極大・極小を調べ関数の性質を考察することができる。	①数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。
9	32. 関数の値の変化 33. 微分法の応用 34. 不定積分・定積分	②事象を数学化したり、数学的に解釈したりする技能を身に付けることができている。	②関数関係に着目し、事象を的確に表現したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察することができる。微分の逆演算として原始関数、不定積分を考え、定積分を用いて面積を求めるなど、グラフと関連付けて考察することができる。	②問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
10	35. 面積(1) 36. 面積(2) 37. 等差・等比数列	③事象を数学的に処理したり、表現したりすることに関する技能を身に付けている。	③問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察することができる。	
11	38. 種々の数列 39. 漸化式、数列の応用 40. 統計的な推測			
12	41. ベクトル 42. ベクトルと平面図形 43. ベクトルと空間図形 実践問題 指数・対数関数	①数列・ベクトルの考えについての基本的な概念や原理法則を体系的に理解することができる。 ②事象を数学化したり、数学的に解釈したりする技能を身に付けることができている。 ③事象を数学的に処理したり、表現したりすることに関する技能を身に付けている。		

○3学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	実践問題 数列 ベクトル	・数列、ベクトルについて理解し、それらを求めることができる。	・数列、ベクトルについて考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
2	演習問題			

※評価の方法については、

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、定期考査を主とし、実課考査等を加味して評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、課題提出の状況を主とし、定期考査や授業に取り組む意欲を加味して評価する。

令和6年度 第3学年理型 数学ア シラバス

数学ア

○1学期

月	単 元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	数学Ⅲ 第3章 微分法 第2節 いろいろな関数の導関数 1 三角関数の導関数 2 対数関数・指数関数の導関数 3 方程式と微分 4 高次導関数 第3節 導関数と関数のグラフ	・三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解し、それらを求めることができる。 ・導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいたりすることができる。	・関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴やほかの事象との関係を考察することができる。 ・関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして、いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察することができる。	・数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
5	1 接戦・法線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の増減 4 第2次関数とグラフ 第4節 微分法の応用 1 最大・最小 2 方程式・不等式への応用	・置換積分法及び部分積分法について理解し、それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。	・極限や定積分の考えを基に、立体の体積や曲線の長さなどを求める方法について考察することができる。	
6	3 曲線の媒介変数表示と微分法 4 速度と加速度 5 関数の近似値 第4章 積分法 第1節 不定積分 1 不定積分 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分		・微分と積分との関係に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って、数学的な特徴を考察することができる。	

○2 学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7	第2節 定積分 1 定積分 2 定積分で表された関数の微分	・不定積分及び定積分の基本的な性質の理解を深め、それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。	・極限や定積分の考えを基に、立体の体積や曲線の長さなどを求める方法について考察することができる。	・数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。
9	3 区分求積法と定積分 第3節 積分法の応用 1 面積 2 体積	・定積分を利用して、いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さなどを求めることができる。	・微分と積分との関係に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って、数学的な特徴を考察することができる。	・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
10	3 曲線の長さ			
11	入試必須問題集 練磨	・数列の極限、関数とその極限、微分法、積分法について理解し、それらを求めることができる。	・数列の極限、関数とその極限、微分法、積分法について考察することができる。	
12	総合演習			

3 学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	入試必修問題集 練磨	・数列の極限、関数とその極限、微分法、積分法について理解し、それらを求めることができる。	・数列の極限、関数とその極限、微分法、積分法について考察することができる。	・数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。
2	総合演習			・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

※評価の方法については、

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、定期考査を主とし、実課考査等を加味して評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、課題提出の状況を主とし、定期考査や授業に取り組む意欲を加味して評価する。

令和6年度 第3学年理型 数学Ⅰ シラバス

数学Ⅰ

○1学期

月	単 元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	数学C 第2章 複素数平面 第1節 複素数平面 1 複素数平面	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数の極形式の意味や、演算の仕方を理解している。 ・複素数を極形式で表したり、その演算を図示したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数を極形式で表示して、複素数の演算と複素数平面上での表示を関連付けて考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数を複素数平面上に図示したり、極形式を用いて表したりすることに関心をもつ。
5	2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 第2節 平面図形と複素数	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数の演算の図形的な意味を理解している。 ・複素数の方程式を、極形式を用いて説くことができる。 ・複素数平面上での分点やある点を中心に回転した点の求め方を理解している。 ・複素数平面上で、分点やある点を中心に回転した点を求めることができる。 ・複素数平面上の図形と、複素数を用いた表示の関連を理解している。 ・図形を複素数を用いて表したり、複素数で表された方程式の図形的な意味を述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数を極形式で表示して、複素数平面上での図形的な考察をすることができる。 ・平面図形を、複素数を利用して考察することができる。 ・平面図形を、複素数と複素数平面上での表示を関連付けて考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数を極形式を用いて表したり、複素数平面上に図示したりして、事象の考察に活用しようとする。 ・複素数を利用して、図形を表したり調べたりできることに関心をもつ。 ・複素数を利用して、図形を表したり、その性質を調べたりしようとする。
6	1 平面図形と複素数 2 方程式の表す図形			

○2学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7	第3章 平面上の曲線 第1節 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動	・2次曲線の定義とそれを表す方程式について理解している。 ・2次曲線の方程式を利用して、焦点・軸などを調べることができる。	・2次曲線とそれを表す方程式とを関連付けて考察することができる。 ・2次曲線の平行移動や接線などを、それを表す方程式と関連付けて考察することができる。	・媒介変数表示や極座標を用いて、いろいろな曲線を表すことに関心をもつ。 ・いろいろな曲線を、媒介変数表示や極座標を活用して調べようとする。
9	5 2次曲線と直線の共有点 6 2次曲線と離心率	・平行移動した2次曲線の方程式からの移動量の求め方や、2次曲線の接線の方程式の求め方を理解している。 ・2次曲線の方程式を利用して、平行移動した2次曲線の方程式や接線などを調べることができる。	・いろいろな曲線を、媒介変数表示や極座標を用いて考察することができる。 ・媒介変数表示や極座標を用いた事象の考察をすることができる。	
10	第2節 媒介変数表示と極座標 1 曲線の媒介変数表示 2 極座標と極方程式 3 いろいろな曲線	・曲線の媒介変数表示や、直交座標と極座標との関係を理解している。 ・媒介変数表示や極座標を用いて表された曲線が、どのような曲線を表すかを求めることができる。		
11	メジアン 総合演習	・いろいろな曲線を、媒介変数表示や極座標を用いて表す考え方を理解している。 ・媒介変数表示や極座標を用いて、いろいろな曲線を・円と直線の位置関係や、点と直線の距離の公式、三角関数の公式や微分係数の定義の公式など、基本的な概念、原	・円と直線の位置関係や、点と直線の距離の公式、三角関数の公式や微分係数の定義の公式などを活用して、考え方や体系に関心をもつとともに、数学の有用さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	・円と直線の位置関係や、点と直線の距離の公式、三角関数の公式や微分係数の定義の公式などを活用して、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を活用しようとする。
12				

		理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。表すことができる。	・円と直線の位置関係や、点と直線の距離の公式、三角関数の公式や微分係数の定義の公式などを活用して、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	
--	--	---	---	--

○3学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	メジアン 総合演習	・円と直線の位置関係や、点と直線の距離の公式、三角関数の公式や微分係数の定義の公式など、基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	・円と直線の位置関係や、点と直線の距離の公式、三角関数の公式や微分係数の定義の公式などを活用して、考え方や体系に関心をもつとともに、数学の有用さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	・円と直線の位置関係や、点と直線の距離の公式、三角関数の公式や微分係数の定義の公式などを活用して、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を活用しようとする。
2			・円と直線の位置関係や、点と直線の距離の公式、三角関数の公式や微分係数の定義の公式などを活用して、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	

※評価の方法については、

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、定期考査を主とし、実課考査等を加味して評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、課題提出の状況を主とし、定期考査や授業に取り組む意欲を加味して評価する。

令和6年度 3年文型化学基礎 年間学習予定（シラバス）

教科	科目	単位	学年・類型	教科書名
理科	化学基礎	2	3年文型	高等学校 化学基礎 (第一学習社)
<p>学習の到達目標</p> <p>化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p>				
学期	単元	学習内容		評価方法
一学期	中間 第Ⅱ章 物質の変化 第3節 酸化還元反応	①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③金属のイオン化傾向		定期・実力考查 授業態度、意欲 課題提出状況 作業プリント 小テストなど 発問評価 実験報告書
	期末 第Ⅱ章 物質の変化 第3節 酸化還元反応	④酸化還元反応の利用 電池・電気分解 ⑤その他 探究活動⑧		
二学期	中間 【総復習】 化学と人間生活 物質の成分と構成元素 原子の構造と元素の周期表 物質と化学結合 物質と化学反応式	【共通テスト対策】 各定期試験は共通テストを意識したものとし、問題数は実際よりも多く、短時間に多くの問題を解く力（スピードをもった読解力・判断力）も養う。 さまざまな出題形式にも慣れ、新傾向問題にも対応できる能力を育成する。		定期・実力考查 授業態度、意欲 課題提出状況 作業プリント 小テストなど 発問評価
	期末 【総復習】 物質と化学反応式 酸と塩基の反応 酸化還元反応	①目標点の設定 ②指定時間内の解答 ③自己採点 ④復習 ⑤弱点分野の把握と補強		
三学期	【直前実戦演習】			授業態度、意欲 課題提出状況 作業プリント 小テストなど

授業の進行状況によって予定が変更されることがあります。

令和6年度 3年生 物理 シラバス

教科	理科	学年	3	教科書（発行者）	高等学校 物理（第一学習社）
----	----	----	---	----------	----------------

科目の 目標	<p>中学校理科及び「物理基礎」との関連を図りながら、物理的な事象・現象を更に深く取り扱い、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-----------	--

計画時に記入する事項（P：計画） ※前年度の申し送り事項を踏まえて					
単元及び学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の観点及び評価方法	実施予定時期
第三章 電気と磁気 第1節 電場と電位 ①静電気力 ②電場 ③電位	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気力に関するクーロンの法則を理解し、さまざまな条件で電場の強さを計算できる。 ・電位を計算し、等電位面と電気力線の関係を理解する。 ・静電誘導、誘電分極を踏まえ、電場中の導体、不導体における電場、電位の様子を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・静電誘導、誘電分極のしくみを説明することができる。 ・電場と電気力線の関係を理解し、帯電体に入力する電気力線を定量的に考えることができる。 ・直流電源装置と黒色面用紙を用いた探究を通して、得られた等電位線から電気力線の様子を指示することができる。 ・帯電した金属板間の導体や不導体について、電場や電位の様子をグラフに表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、静電気力、電場、電気力線の性質について意図的に考えようとする。 ・電場や電位の関係、等電位面と電気力線の関係、静電誘導、誘電分極の現象などを自ら進んで理解しようとする。 	授業態度 発問評価 定期考査 課題提出	4 月
④コンデンサー 第2節 電流 ①電流と抵抗	<ul style="list-style-type: none"> ・コンデンサーにおける基本的な公式を理解し、さまざまな条件における電気容量やたくわえられる電荷を求めることができる。 ・静電エネルギーの式の導出過程を理解し、エネルギーを求めることができる。 ・電子の運動をもとに、オームの法則やジュール熱などの式を導き、各物理量を計算できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンデンサーにたくわえられる電気量と、極板の面積、極板間の距離との関係を導くことができる。 ・コンデンサーの極板間の電場や電位差など、各量について、誘電体による変化を考察できる。 ・導体中における自由電子の運動に着目し、抵抗や抵抗率との関係を考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電池のする仕事と静電エネルギーの関係について、意図的に考える。 ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、電子の運動というミクロな視点で、オームの法則について意図的に考えようとしている。 ・電流計、電圧計などの各計器の内部抵抗について、その役割を理解しようとしている。 	授業態度 発問評価 定期考査 課題提出	5 月
②直流回路 ③半導体	<ul style="list-style-type: none"> ・キルヒホッフの法則をもとに、ホイートストンブリッジや電位差計の回路のしくみを理解する。 ・ホイートストンブリッジの原理を利用して、未知の電気抵抗を測定できる。 ・非直線抵抗を含む回路での電流、電圧の関係をグラフから読み取り、理解する。 ・キャリアの役割を踏まえ、ダイオードや太陽電池のはたらきを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キルヒホッフの法則を理解し、さまざまな回路での電流、電圧を算出することができる。 ・半導体抵抗と乾電池を用いた探究などを通して、電池の起電力と内部抵抗を測定できる。 ・半導体中のキャリアの動きを考慮し、ダイオードや太陽電池での電流の流れるようすを説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各回路に對して、キルヒホッフの法則の適用方法を導こうとしている。 ・身のまわりで使用されている半導体に興味をもち、ダイオードや太陽電池における、電子の運動を考えようとしている。 	授業態度 発問評価 定期考査 課題提出	6 月
第3節 電流と磁場 ①磁場 ②電流がつくる磁場 ③電流が磁場から受ける力 ④ローレンツ力	<ul style="list-style-type: none"> ・磁場間にはたらく磁気力の大きさ、電流のまわりに生じる磁場の強さを計算できる。 ・電流が磁場から受ける力の向きを、フレミングの左手の法則などを用いて考えることができる。 ・磁場中で電流が受ける力の大きさを求めることができる。 ・磁束密度と磁場の関係を定量的に把握し、磁化の性質を理解する。 ・電流どうしがおよぼしあう力の向きや大きさを求めることができる。 ・荷電粒子にはたらくローレンツ力の大きさや向きを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・磁場や電流のまわりに生じる磁場について、右ねじの法則をもとにして考えることができる。 ・電流が磁場から受ける力の向きを調べることができる。 ・電流間での力が生じることを、右ねじの法則などを用いて理解する。 ・ローレンツ力の性質をもとに、荷電粒子の運動を考察することができる。 ・ローレンツ力の性質を把握することで、金属中の電子の運動をもとにホール効果について考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、電流のまわりに生じる磁場について意図的に考える。 ・電流が磁場から受ける力の向きや大きさ、磁束密度や磁場の関係を意図的に理解しようとする。 ・平行電流間がおよぼしあう力の大きさを自ら進んで導出しようとする。 ・磁場中の荷電粒子の運動について意図的に考察しようとする。 ・ローレンツ力の性質を踏まえ、身のまわりで利用されている現象を、電子の動きに着目して理解しようとする。 	授業態度 発問評価 定期考査 課題提出	7 ・ 9 月
第4節 電磁誘導と交流 ①電磁誘導 ②自己誘導と相互誘導 ③交流 ④電磁波	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな電磁誘導の現象において、誘導起電力の大きさと向きを算出することができる。 ・磁場中を動く導体に生じる起電力や、導体を動かすに要する力を計算することができる。 ・ネオジム磁石でつくった振り子を用いて、渦電流について調べ、材質による違いを知る。 ・電磁誘導のしくみを理解し、自己誘導、相互誘導での起電力の向きや大きさを導くことができる。 ・交流が発生するしくみを理解し、抵抗、コイル、コンデンサーの交流の性質を定量的に理解する。 ・電気振動のエネルギーの移り変わりについて、式で表すことができる。 ・電場と電場の関係を把握し、電磁波の発生と結びつけて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コイルに棒磁石を近づけたり、遠ざけたりする実験の結果から、ファラデーの電磁誘導の法則を見出し理解する。 ・コイルにたくわえられるエネルギーの式を導出することができる。 ・コイルを貫く磁束の変化から、交流の発生を考察することができる。 ・抵抗、コイルなどに生じる交流電圧、電流の関係を、キルヒホッフの法則を用いて考えることができる。 ・電気振動において、固有振動数やエネルギーのやり取りを考察できる。 ・電磁波の性質から、利用されている身近なものも考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、実験に主体的に取り組み、電磁誘導の法則を理解しようとする。 ・自己誘導や相互誘導の現象の学習に意図的に取り組む。 ・交流が発生するしくみに興味をもち、抵抗、コイル、コンデンサーの特性を考えようとする。 ・直列共振回路の性質や電磁誘導の現象を意図的に理解しようとする。 ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、身のまわりで利用されている電磁波と照らし合わせながら、電磁波の種類と性質を自ら進んで考えようとする。 	授業態度 発問評価 定期考査 課題提出	1 0 月
第1節 電子と光 ①電子 ②光の粒子性 ③X線 ④粒子の波動性	<ul style="list-style-type: none"> ・電子の性質が解明されるまでの研究について、定量的に理解する。 ・箔検電器と亜鉛板を利用して、亜鉛板に紫外線を照射することで、光電効果を調べることができる。 ・光電効果の特徴やその実験過程を理解し、仕事関数やX線の最大運動エネルギーを計算できる。 ・X線の最短波長を計算し、ブラッグの反射条件の式を理解して、適用することができる。 ・コンプトン効果において、入射X線と散乱X線の波長の差を示す式を導出できる。 ・物質波の意味を理解し、その波長や運動量の関係式を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トムソンやミリカンの実験について、電場や磁場の関係式を適用し、電子の運動を説明できる。 ・光電効果における光の強さと光電子の数、振動数と運動エネルギーなどの関係を考察できる。 ・光電効果の実験結果を、アインシュタインの提唱した光量子仮説から説明できる。 ・X線の波動性や粒子性を示す実験を理解し、結論を導くまでの過程を式を用いて考えることができる。 ・物質粒子の質量と波長などの関係式を用いて、さまざまな物質波の波長を算出することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した荷電粒子の運動をもとに、トムソンやミリカンの実験のしくみを考え、式を用いて理解しようとしている。 ・レントゲン写真などの身近なものも結びつけて、X線の性質を考えようとする。 ・これまでに学習した法則をもとに、コンプトン効果でのX線光子、電子の運動を意図的に考えようとする。 ・光やX線がもつ粒子性を、電子のような粒子の波動性に結びつけて考えようとする。 	授業態度 発問評価 定期考査 課題提出	1 1 月
第2節 原子と原子核 ①原子の構造 ②原子核と放射線	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーアの原子模型の特徴を理解し、水素原子の電子軌道や、エネルギー準位とスペクトルとの関係について理解する。 ・分光器を用いて、さまざまな光源から発せられる光を観察し、光源によるスペクトルの違いを知る。 ・統一原子質量単位を理解し、さまざまな原子の原子量を計算できる。 ・質量欠損や結合エネルギー、核反応で出入りするエネルギーをそれぞれ計算で求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーアの量子条件と物質波による考え方の関係を結びつけて考える。 ・同位体と存在比との関係から、原子量の計算方法を算出することができる。 ・半減期のモデル実験を行い、原子核の数や経過時間との関係について考察することができる。 ・核分裂の現象を踏まえ、原子力発電の基本的な原理を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の構造を解明しようとする歴史的な背景に関心を示し、理解しようとしている。 ・ボーアの原子模型に関心をもち、水素原子のスペクトルを考えようとする。 ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、原子核の構成や放射線の性質を考えようとする。 	授業態度 発問評価 定期考査 課題提出	1 2 月
③核反応とエネルギー ④素粒子と宇宙 1年間のまとめと演習	<ul style="list-style-type: none"> ・素粒子の分類を理解し、クォークやレプトンの特徴を把握する。 ・自然界における基本的な力の種類と性質について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・素粒子の性質を踏まえて、それらを系統的に分類する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、核反応におけるエネルギーを定量的に理解しようとしている。 ・素粒子の研究と宇宙の進化の解明とのつながりに関心をもち、意図的に理解しようとしている。 	授業態度 発問評価 定期考査 課題提出	1 5 3 月

令和6年度 3年理型化学 年間学習予定 (シラバス)

教科	科目	単位	学年・類型	教科書名
理科	化学	3	3年理型	高等学校 化学 (第一学習社)
<p>学習の到達目標</p> <p>化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p>				
学期	単元	学習内容	評価方法	
一学期	中間 第Ⅱ章 物資の変化と平衡 電離平衡 第Ⅲ章 無機物質 非金属元素の単体とその化合物 典型金属元素の単体とその化合物	①元素の分類と性質 ②水素③希ガス④ハロゲン ⑤酸素・硫黄⑥窒素・リン⑦炭素・ケイ素 ①アルカリ金属②2族元素③亜鉛・水銀 ④アルミニウム⑤スズ・鉛	定期・実力考査 授業態度、意欲 課題提出状況 作業プリント 小テストなど 発問評価 実験報告書	
	期末 第Ⅲ章 無機物質 遷移元素の単体とその化合物 第Ⅳ章 有機化合物 有機化合物の特徴と構造 脂肪族炭化水素	①鉄②銅③銀④クロム・マンガン ⑤金属イオンの定性分析 ①金属の利用 ②セラミックスの利用 ①特徴と分類 ②化学式の決定 ①飽和炭化水素 ②不飽和炭化水素		
二学期	中間 第Ⅳ章 有機化合物 酸素を含む脂肪族化合物 芳香族化合物 有機化合物と人間生活	①アルコールとエーテル ②アルデヒドとケトン ③カルボン酸とエステル ④油脂とセッケン ①芳香族炭化水素 ②酸素を含む芳香族化合物 ③窒素を含む芳香族化合物 ④芳香族化合物の分離	定期・実力考査 授業態度、意欲 課題提出状況 作業プリント 小テストなど 発問評価 実験報告書	
	期末 第Ⅴ章 高分子化合物 合成高分子化合物 天然高分子化合物 高分子化合物と人間生活 【直前実戦演習】	①高分子化合物の構成 ②合成樹脂③合成繊維 ①デンプンとセルロース ②タンパク質 ①単糖と二糖 ②アミノ酸 ③天然繊維と天然ゴム ④核酸 ①機能性高分子化合物 ②合成ゴム		
三学期	学 年 末 考 査 【二次力養成講座】	二次試験対策演習	授業態度、意欲 課題提出状況 作業プリント 小テストなど	

授業の進行状況によって予定が変更されることがあります。

3年生 生理型 生物 シラバス

教科	理科	単位数	3	教科書（発行者）	生物（数研出版）
----	----	-----	---	----------	----------

科目の 目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生物学の基本的な概念や原理、法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
-----------	---

単元及び学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の観点及び評価方法	実施予定時期
第5章 動物の反応と行動 第1節 刺激の受容	<ul style="list-style-type: none"> 眼の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられ、視覚が生じることを理解する。 受容器の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 視細胞の分布に関する資料に基づき、盲斑の存在を見いだすことができる。 ヒトの視覚経路の構造について理解し、視神経を切断した場合の見え方と関連づけて説明することができる。 人工臓器の一つである人工内耳の原理について説明し、人工内耳を装着した患者に対する留意すべき点について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 刺激の受容に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 実力検査 授業プリント 観察 課題 	4月 上旬 ～ 中旬
第2節 ニューロンとその興奮	<ul style="list-style-type: none"> ニューロンの興奮が細胞膜で生じる電気的な変化であることを、イオンチャネルやポンプのはたらきを踏まえて理解する。 ニューロンが生じた興奮が次のニューロンへと伝えられるまでの過程を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 軸索を刺激する実験の資料に基づき、ニューロンの興奮に見られる性質を見いだすことができる。 神経筋標本による実験の資料に基づき、伝導や伝達に要する時間を計算することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ニューロンとその興奮に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 	4月 下旬
第3節 情報の統合	<ul style="list-style-type: none"> ヒトの神経系の構造について理解する。 ヒトの脳の構造とそれぞれの部位がもたらすことについて理解する。 観察④「さまざまな動物の脳の観察」(p.254)を行い、脳の構造を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 反射が無意識のうち起こる理由を、興奮の伝達経路と関連づけて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の統合に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 	5月 月上旬
第4節 刺激への反応	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な効果器である筋肉の構造について理解する。 筋肉が、神経系から伝達してきた刺激を受け取って収縮するしくみを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 死後硬直のしくみについて、筋肉収縮のしくみに着目しながら説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 刺激への反応に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 定期検査 	5月 中旬
第5節 動物の行動	<ul style="list-style-type: none"> 動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ジョジョウバネの求愛行動が、雄と雌の互いの行動によって連鎖的に進行していくことを、雌雄の神経回路の違いと関連づけてから説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動物の行動に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 	5月 下旬
第6章 第1節 植物の生活と植物ホルモン	<ul style="list-style-type: none"> 植物は周囲の環境の変化を感知して、その環境に応答することを理解する。 環境からの情報伝達に植物ホルモンがはたらいていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> エチレンが空気を膨らませていることを確かめるためにどのような実験を行えばよいかを考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物の生活と植物ホルモンに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 		
第2節 発芽の調節	<ul style="list-style-type: none"> 植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみを理解する。 植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠・発芽する意義を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 光発芽種子の発芽条件と、樹木の葉の上下での各波長の光の割合と関連づけて、光発芽種子がもつ利点を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発芽の調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 	6月 月上旬
第3節 成長の調節	<ul style="list-style-type: none"> 植物の成長が光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。 植物の成長の調節に植物ホルモンが関わっていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 茎や根が必ず先端部から基部側で曲がる理由について考え、説明することができる。 植物が重力方向を感知できなくなった場合、自然界での成長においてどのような不都合があるかを考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 成長の調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 	6月 中旬
第4節 器官の分化と花芽形成の調節	<ul style="list-style-type: none"> 植物は、葉、茎、根、花などの器官への分化を通して成長していくことを理解する。 植物の器官の分化は周囲の環境の変化や成長の段階に応じて調節されていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物の成長様式を踏まえて、ある木の幹につけた傷が時間経過によってどうなるかを考え、説明することができる。 花芽の形成が日長によって引き起こされることの利点について考え、説明することができる。 高緯度の寒帯地域ではおもしろく日長植物が生きている理由について考え、説明することができる。 花芽形成に関する実験結果をもとに、葉で感知された日長の情報がどのように伝達されるかを考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 器官の分化と花芽形成の調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 定期検査 	6月 下旬 ～ 7月 月上旬
第5節 環境の変化に対する応答	<ul style="list-style-type: none"> 植物が水の出入りを調節するしくみを理解する。 植物の防御応答について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に防御物質を蓄積している植物と食害を受けてから防御物質を合成する植物を比較し、それぞれが有利・不利になる環境を考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境の変化に対する応答に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 	7月 中旬
第6節 配偶子形成と受精	<ul style="list-style-type: none"> 被子植物の配偶子形成と受精のしくみを理解する。 被子植物の種子の形成や果実の成熟のしくみを理解する。 観察⑥「花粉管の伸長の観察」(p.312)を行い、花粉管が伸長するようを観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 裸子植物と比較して、被子植物が行う重複受精にどのような利点があるかを考え、説明することができる。 胚の中の各細胞の有無と花粉管誘引に関する実験結果をもとに、被子植物の受精で花粉管が胚のうへと誘引されるしくみについて考え、説明することができる。 植物ホルモンが関わっている例の一つとして、種なしぶどうのつくり方を調べ、説明することができる。 植物とヒトの光刺激に対する受容と反応のしくみの違いや共通点について考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 配偶子形成と受精に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 実力検査 	9月 月上旬
第7章 第1節 個体群の構造と性質	<ul style="list-style-type: none"> 個体群の成長には個体群密度が関係していることを理解する。 個体群の個体数の変化には、その個体群の年齢構成や年齢ごとの死亡率などが影響することを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 標識再捕法で個体数が推定できる理由を、対象となる生物の個体群の性質などを踏まえて説明することができる。 与えられた条件をもとに、個体群の個体数を推定することができる。 生存曲線のそれぞれの型が有利になる生息環境について、その生物がおかれている状況と年齢ごとの死亡率を関連させて推測し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個体群の構造と性質に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 	9月 中旬
第2節 個体群内の個体間の関係	<ul style="list-style-type: none"> 群れや縄張りについて、その大きさに応じて生じる利益と不利益の兼ね合いによって、最適な大きさが存在していることを理解する。 個体群内で見られる個体どうしの社会的な関係とその利益を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 最適な群れの大きさを決める要因を理解し、群れのおかれた環境に応じて時間の配分率のグラフがどのように変化するかを説明することができる。 群れを形成するアユの体長について、個体群密度との関係を考え、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個体群内の個体間の関係に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 	9月 下旬
第3節 異なる種の間での関係	<ul style="list-style-type: none"> 生物群集には、捕食・被食や種間競争、共生などの種間関係があることを理解する。 生態的地位(ニッチ)の概念を理解する。 生態系内で多様な種の共存を可能にしているしくみを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3種のゾウムシのなかまの飼育時の個体群密度の変化の資料に基づいて、生活上の要求の違いによって異なる種の間での共存が見いだすことができる。 2種のフジゴケの成体の分布が分かれることについて、種間競争や乾燥への耐性と関連づけて説明することができる。 エゾアカガエルの実験結果について、捕食者の存在の有無を踏まえて理由を考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる種の間での関係に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 定期検査 	10月 月上旬
第4節 生態系の物質生産と物質循環	<ul style="list-style-type: none"> 生産者による物質生産によって生態系内の生物に有機物やエネルギーが供給されることを理解する。 生態系では食物連鎖を通じて物質が循環し、エネルギーが移動していることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現存量当たりの純生産量の生態系ごとの違いについて、その生態系を構成する生産者の生産構造と関連づけて説明することができる。 生態系におけるエネルギー量とエネルギー効率を計算することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生態系の物質生産と物質循環に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 	10月 中旬
第5節 生態系と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> 生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。 人間活動が生態系に与える影響の例として、窒素排出量の増加や生息地の分断化などがあることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 施肥による窒素の増加とサンゴ礁の破壊に関する資料に基づいて、人間活動が生態系に影響を及ぼしていることを見いだすことができる。 植林活動と海の豊かさの関係について、学習したことをもとに、資料などをもとめて自分の言葉で説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生態系と人間生活に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 	10月 下旬
演習	<ul style="list-style-type: none"> 正しい知識を身につけている。 実験に関する問題に適切に対処できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考問題を適切に解くことができる。 論述問題に対して適切な思考をして自分の言葉で論述することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら考え、問題を解こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリント 観察 課題 定期検査 	12月

第3学年 保健体育科 科目「体育」 シラバス

科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、その技能を身に付けるようにする。
- (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

内容のまとめ	単元(ア)イレベル又は小単元(ク)レレベル	配当時間	評価の観点			観点別評価規準	評価方法	実施予定
			知	思	態			
○ T	オリエンテーション 旭野体操 体づくり運動	4	○		◎	主 ・仲間と課題を伝え合うなど、互いに助け合おうとしている。	・観察	4月
I 期	選択領域Ⅰ 球技Ⅰ、球技Ⅱ、球技Ⅲより1領域選択 ただし、球技Ⅰあるいは球技Ⅱからの選択は2つまでとする。	20	◎	○	○	知 ・柔道では相手の動きの変化に応じやすい自然体で組もうとしている。 ・相手の投げ技に応じて受け身をとることができる。 ・球技では各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出す動きによって攻防を展開している。 ・役割に応じたボール操作や安定した道具の操作を実践することができる。 ・試合や競技会の運営方法を理解している。	・観察 ・スキルテスト ・学習カード	5月
						思 ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善点を理由とともに他者に伝えることができる。		6月
						主 ・自主的に学習に取り組もうとしている。 ・仲間に助言したりして、互いに助け合い、教え合おうとしている。		
	体育理論 スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術	2	◎			知 運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること。また、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があることを理解している。	・学習カード ・観察	7月
II 期	領域選択Ⅱ 柔道、球技Ⅰ、球技Ⅱ、球技Ⅲより1領域選択 ただし、球技Ⅰあるいは球技Ⅱからの選択は2つまでとする。	20	◎	○	○	知 ・柔道では相手の動きの変化に応じやすい自然体で組もうとしている。 ・相手の投げ技に応じて受け身をとることができる。 ・球技では各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出す動きによって攻防を展開している。 ・役割に応じたボール操作や安定した道具の操作を実践することができる。 ・試合や競技会の運営方法を理解している。	・観察 ・スキルテスト ・学習カード	9月
						思 ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善点を理由とともに他者に伝えることができる。		10月
						主 ・自主的に学習に取り組もうとしている。 ・仲間に助言したりして、互いに助け合い、教え合おうとしている。		
	体育理論 スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術	2	◎			思 運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること。また、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があることを理解している。	・学習カード ・観察	11月
III 期	領域選択Ⅲ 柔道、球技Ⅰ、球技Ⅱ、球技Ⅲ、ダンスより1領域選択 ただし、球技Ⅰあるいは球技Ⅱからの選択は2つまでとする。	20	◎	○	○	知 ・柔道では相手の動きの変化に応じやすい自然体で組もうとしている。 ・相手の投げ技に応じて受け身をとることができる。 ・球技では各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出す動きによって攻防を展開している。 ・役割に応じたボール操作や安定した道具の操作を実践することができる。 ・試合や競技会の運営方法を理解している。	・観察 ・スキルテスト ・学習カード	12月
						思 ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善点を理由とともに他者に伝えることができる。		1月
						主 ・自主的に学習に取り組もうとしている。 ・仲間に助言したりして、互いに助け合い、教え合おうとしている。		2月
	体育理論 体カトレーニング 運動やスポーツでの安全の確保	2	◎			主 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。	・学習カード ・観察	

令和6年度 英語コミュニケーションⅢ シラバス

科目	単位数	学年・類型	使用教材名		発行者
英語コミュニケーションⅢ	3	3年全員	教科書	Heartening EC Ⅲ	桐原書店
			副教材	Cutting Edge Blue システム英単語 共通テスト英語模擬演習 40min	エミル出版 駿台文庫 エミル出版

1 観点別評価規準と目標

	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
学年ごとのCAN-DOリスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な話題についての説明文や意見文および社会的な話題についての説明文や意見文などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。 ・ 日常的な話題についての説明文や意見文および社会的な話題についての説明文や意見文などを聞いて、要点や詳細をとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な話題についての説明文や意見文および社会的な話題についての説明文や意見文などを速読して、概要をとらえることができる。 ・ 日常的な話題についての説明文や意見文および社会的な話題についての説明文や意見文などを精読して、要点や詳細をとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会全般に関する話題について、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝えあうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会全般に関する話題についての情報や考えを、複数の理由とともに話して伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会全般に関する話題についての自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して、複数の段落を用いて書いて伝えることができる。
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することはできるようにする。 ・ 社会的な話題について、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。 ・ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な話題について、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやりとりを続け、会話を発展させることができるようにする。 ・ 社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な話題について、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく伝えることができるようにする。 ・ 社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な話題について、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく描いて伝えることができるようにする。 ・ 社会的な話題に関して、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく描いて伝えることができるようにする。

2 学習方法

(1) 予習

- ・システム英単語小テストの学習をする

(2) 授業

- ・毎授業の初めに、システム英単語小テスト行う
- ・テキストとハンドアウトを使って学習する
- ・各レッスンの終わりに、Activity Plus に取り組む

(3) 復習

- ・テキストやハンドアウトを使って、授業内容を確認する

3 学習内容と評価方法

単元及び学習内容	配当時間	評価の観点	内容のまとめ				観点別評価規準	評価方法								実施予定時期							
			聞くこと	読むこと	話・やり取り	書くこと		活動の観察	ワークシート	ワークシート	ワークシート	ワークシート	ワークシート	ワークシート	ワークシート		ワークシート	ワークシート					
[Heartening] Lesson 2- What Makes Up Your Identity? 【単元の目標】 未来予想について扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	8	知	○	○		○	・発明家のニコラ・テスラが100年前に予測した科学技術について読み、要点や詳細を理解している。														4月～5月上旬		
		思	○	○	○	○	・未来の科学技術で最も重要なものについて自分の意見を伝えようとしている。																
		態			○	○	○	・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○													
[Cutting Edge] Chapter1「教育と疾病」 Chapter2「最後のメッセージ」 Chapter3「目の大きさと脳の関係」	6	知		○	○	○	・英文に出てくる語句や語法を理解し、長文の内容が理解できる。															5月下旬～6月中旬	
		思		○	○	○	○	・テーマの概要や要点、書き手の意図などを的確に理解している。															
		態		○	○	○	○	・文章読解に主体的に取り組むことができる。	○	○													
Lesson 4 - Diversity and Inclusion 【単元の目標】 多様性について扱い、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。	10	知	○	○		○	・文化的な多様性を促進するために重要なことについて読み、要点や詳細を理解している。															7月～9月	
		思	○	○	○	○	・多様性を促進する方法について自分の意見を伝えようとしている。																
		態		○	○	○	○	・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○													
[Cutting Edge] Chapter4「液体燃料問題」 Chapter5「貴重な教訓」 Chapter6「コークVSペーン」	8	知		○	○	○	・英文に出てくる語句や語法を理解し、長文の内容が理解できる。															10月下旬～11月	
		思		○	○	○	○	・テーマの概要や要点、書き手の意図などを的確に理解している。															
		態		○	○	○	○	・文章読解に主体的に取り組むことができる。	○	○													
Lesson 5 - Protein Crisis 【単元の目標】 将来のタンパク源について扱い、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う。	11	知	○	○		○	・タンパク質の供給不足の問題と、それを補うための代替タンパク質について読み、要点や詳細を理解している。															11月下旬～12月	
		思	○	○	○	○	・将来のタンパク源として最適なものについて、調べたり考えたりしながら自分の意見を伝えようとしている。																
		態		○	○	○	○	・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○													
[Cutting Edge] Chapter7「動物の社会的距離」 Chapter8「睡眠の役割」 Chapter9「口論と真実」	10	知		○	○	○	・英文に出てくる語句や語法を理解し、長文の内容が理解できる。															12月～1月	
		思		○	○	○	○	・テーマの概要や要点、書き手の意図などを的確に理解している。															
		態		○	○	○	○	・文章読解に主体的に取り組むことができる。	○	○													
Lesson 8 - Kintsugi : The Art of Embracing the Imperfect 【単元の目標】 伝統工芸品について扱い、文化を尊重し、それを育んできた環境を大切にすることを養う。	10	知	○	○		○	・金継ぎの特長や金継ぎから学べる人生の教訓について読み理解している。															12月～1月	
		思	○	○	○	○	・日本の伝統工芸品について話し合い、その特長を説明しようとしている。																
		態		○	○	○	○	・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○													
[Cutting Edge] Chapter10「オーガニック」 Chapter11「自動運転車」 Chapter12「AIと仕事」	10	知		○	○	○	・英文に出てくる語句や語法を理解し、長文の内容が理解できる。															12月～1月	
		思		○	○	○	○	・テーマの概要や要点、書き手の意図などを的確に理解している。															
		態		○	○	○	○	・文章読解に主体的に取り組むことができる。	○	○													
Lesson 10- Medical Ethics During a Pandemic 【単元の目標】 医療倫理について扱い、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。	12	知	○	○		○	・医師のエドワード・ジェンナーが天然痘ワクチンを開発した際の医療倫理について読み理解している。															12月～1月	
		思	○	○	○	○	・有効性が確立されていない医療を試すことについて、自分の意見を伝えようとしている。																
		態		○	○	○	○	・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○													
[共通テスト英語模擬演習]	12	知		○	○	○	・英文に出てくる語句や語法を理解し、長文の内容が理解できる。															12月～1月	
		思		○	○	○	○	・テーマの概要や要点、書き手の意図などを的確に理解している。															
		態		○	○	○	○	・文章読解に主体的に取り組むことができる。	○	○													

令和6年度 論理・表現Ⅲ シラバス

科目	単位数	学年・類型	教科書名	発行者
論理・表現Ⅲ	2	3年全員	FACTBOOK English Logic and Expression Ⅲ	桐原書店
			クローザー頻出英文法・語法問題集 スクランブル英文法・語法	文英堂 旺文社

1 観点別評価規準と目標

	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
学年ごとの CAN- DOリスト	社会全般に関する話題について、相手の意見に応じて賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝えあうことができる。	社会全般に関する話題についての情報や考えを、複数の理由とともに話して伝えることができる。	社会全般に関する話題についての自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して、複数の段落を用いて書いて伝えることができる。
科目の目標	ア 社会全般に関する話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、使用する語句や文、対話の展開などを工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。 イ ディベートやディスカッションなどの活動を通して、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。	ア 社会全般に関する話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、使用する語句や文、対話の展開などを工夫して話して伝えることができるようにする。 イ ディベートやディスカッションなどの活動を通して、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して伝えることができるようにする。	ア 社会全般に関する話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、書いて伝えることができるようにする。 イ 意見や主張などを、論理の構成や展開を工夫して、複数の段落から成る文章で書いて伝えることができるようにする。

2 学習内容

FACTBOOK English Logic and Expression Ⅲ

- ・ テーマに沿って、トピックに関する話題や自分の考えを話したり書いたりしよう。
- ・ 論理の構成や展開を工夫して、ペアやグループでやりとりしよう。

クローザー頻出英文法・語法問題

- ・ 授業で習った範囲の問題はすぐに解き、復習しよう。繰り返し解き、様々な表現の定着を図ろう。
- ・ 発展問題にもチャレンジしよう。その際には、参考書「スクランブル英文法・語法」を積極的に活用しよう。

スクランブル英文法・語法

- ・ 2年生で学習してきた内容をすぐに使うことができるように、完全にマスターしよう。

学習内容・観点別評価基準・評価方法

単元及び学習内容	配当時間	評価の観点	内容のまとめ					観点別評価基準	
			聞くこと	読むこと	話・やり取り	話・発表	書くこと		
【FACTBOOK】Unit 3 How do people use different types of media? ・ニュースサービスの利用状況のグラフについて話し合うことができる ・ニュースサービスの利用状況のグラフを説明するパラグラフを書くことができる ・ソーシャルメディアの問題点についてディスカッションをすることができる	4	知		○			○	グラフの情報を明確に説明するための語彙や表現を用いて、英文を書いたり話したりすることができる	
		思				○		グラフの概要や情報を整理し、データの考察を提示しながら、適切に英語で表現したり伝え合ったりしている	
		態				○			読んだり聞いたりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして積極的に表現しようとしている
【クローザー】類出英文法・語法問題 Lesson 1,2	4	知					○	文型、動詞の語法、基本時制について理解し、適切な語句や表現を選んだり、適切に英文を書くことができる	
		思	○		○				英文の内容から適切な語句や表現を選んだり、日本語の意味になるように適切な英文を書くことができる
		態				○			英文の内容を正しく理解するために、主体的に考えることができる
【スクランブル英文法・語法】 Part 1 文法 問題番号1-239	4	知					○	時制、受動態、助動詞、不定詞、動名詞、分詞、仮定法、比較について、正しく理解することができる	
		思	○		○				英文の内容から適切な語句や表現を選んだり、日本語の意味になるように適切な英文を書くことができる
		態				○			英文の内容を正しく理解するために、主体的に考えることができる
【FACTBOOK】Unit 5 Moving toward a cashless society ・キャッシュレス決済の普及の原因とその利点について話し合うことができる ・キャッシュレス決済の普及の原因とその利点を示すパラグラフを書くことができる ・キャッシュレス決済の普及の原因とその利点についてスピーチをすることができる	5	知		○			○	原因となる出来事や状況、また、その原因がもたらす結果を説明するための語彙や表現を用いて、英文を書いたり話したりすることができる	
		思	○		○				原因となる出来事や状況、また、その原因がもたらす結果を提示しながら、その理由付けによる因果関係のつながりを適切に英語で表現したり伝え合ったりしている
		態				○			読んだり聞いたりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして積極的に表現しようとしている
【クローザー】類出英文法・語法問題 Lesson 3,4,5	5	知					○	助動詞、受動態、不定詞、動名詞について理解し、適切な語句や表現を選んだり、適切に英文を書くことができる	
		思	○		○				英文の内容から適切な語句や表現を選んだり、日本語の意味になるように適切な英文を書くことができる
		態				○			英文の内容を正しく理解するために、主体的に考えることができる
【スクランブル英文法・語法】 Part 1 文法 問題番号240-473	5	知					○	疑問、否定、代名詞、関係詞、接続詞、強調・倒置・省略・代用について、正しく理解することができる	
		思	○		○				英文の内容から適切な語句や表現を選んだり、日本語の意味になるように適切な英文を書くことができる
		態				○	○		英文の内容を正しく理解するために、主体的に考えることができる
【FACTBOOK】Unit 6 Are food additives really bad for us? ・食品添加物の摂取について話し合うことができる ・食品添加物の摂取について賛否の意見を述べるパラグラフを書くことができる ・食品添加物の摂取についてディベートをすることができる	6	知		○			○	立場を明確にして説得的に意見を述べるための語彙や表現を用いて、英文を書いたり話したりすることができる	
		思	○		○				自分の意見を明示し、その前提となる背景や根拠、そして理由の説明しながら、自分の意見の念押しとなるまとめを適切に英語で表現したり伝え合ったりしている
		態				○			読んだり聞いたりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして積極的に表現しようとしている
【クローザー】類出英文法・語法問題 Lesson 6,7,8,9	6	知					○	分詞、比較、関係代名詞について理解し、適切な語句や表現を選んだり、適切に英文を書くことができる	
		思	○		○				英文の内容から適切な語句や表現を選んだり、日本語の意味になるように適切な英文を書くことができる
		態				○			英文の内容を正しく理解するために、主体的に考えることができる
【スクランブル英文法・語法】 Part 2 語法 問題番号474-725	6	知					○	動詞・名詞・冠詞・形容詞・副詞・前置詞の語法について、正しく理解することができる	
		思	○		○				英文の内容から適切な語句や表現を選んだり、日本語の意味になるように適切な英文を書くことができる
		態				○			英文の内容を正しく理解するために、主体的に考えることができる
【FACTBOOK】Unit 9 Reading e-books or printed books? ・電子教科書と紙の教科書の違いについて話し合うことができる ・電子教科書と紙の教科書を対比するパラグラフをかくことができる ・電子教科書と紙の教科書の違いについてスピーチをすることができる	7	知		○			○	対比する語彙や表現を用いて、英文を書いたり話したりすることができる	
		思	○		○				論点の軸を明確にしたり、統一の視点を持ちそれを基準に対比の差異を際立たせたりして、対比する表現を用いて構成を整理し、適切に英語で表現したり伝え合ったりしている
		態				○	○		読んだり聞いたりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして積極的に表現しようとしている
【クローザー】類出英文法・語法問題 Lesson 10,11,12,13	6	知					○	関係副詞、仮定法、接続詞、疑問詞、時制の一致や語法、否定等について理解し、適切な語句や表現を選んだり、適切に英文を書くことができる	
		思	○		○				英文の内容から適切な語句や表現を選んだり、日本語の意味になるように適切な英文を書くことができる
		態				○			英文の内容を正しく理解するために、主体的に考えることができる
【スクランブル英文法・語法】 Part 2 語法 問題番号878-1306	6	知					○	動詞・形容詞・副詞・名詞・前置詞中心のイディオムについて、正しく理解することができる	
		思	○		○				英文の内容から適切な語句や表現を選んだり、日本語の意味になるように適切な英文を書くことができる
		態				○			英文の内容を正しく理解するために、主体的に考えることができる
受験問題演習 入試問題(共通テスト対策+二次対策)	6	知					○	英文を読んだり聞いたりする中で、適切な語句や表現について、正しく理解することができる	
		思	○		○				英文の内容から適切な語句や表現を選んだり、日本語の意味になるように適切な英文を書くことができる
		態				○	○		英文の内容を正しく理解するために、主体的に考えることができる

令和6年度 α シラバス

科目	単位数	学年・類型	使用教材名		発行者
α	2	3年・選択	教科書	読解力と表現力を高める SDGs 英語長文 Think, Share, Act	三省堂

1 観点別評価規準と目標

	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
学年ごとの CAN — DOリス ト	・発表されたものを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。	・社会的な話題や時事問題について書かれている説明や評論などを読んで、情報や考えなどの概要をとらえることができる。	・発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりすることができる。	・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表することができる。	・主題を決め、様々な種類の文章を書くことができる。
科目の 目標	・社会的な話題や時事問題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じてとらえることができるようにする。	・社会的な話題や時事問題について、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じてとらえることができる。	・社会的な話題や時事問題について、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを詳しく話して伝え合うことができるようにする。	・社会的な話題や時事問題について、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。	・社会的な話題や時事問題について、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

2 学習方法

(1) 予習

- ・各レッスンの単語や表現がまとめられているページをチェックする。

(2) 授業

- ・文章を読んで、自分の考えをまとめる。
- ・各レッスンの終わりに、Activity Plusに取り組む。

(3) 復習

- ・教科書を見直す。

3 学習内容と評価方法

単元及び学習内容	配当時間	評価の観点	内容のまとめ				観点別評価規準	評価方法										実施予定時期	
			聞くこと	読むこと	話・やり取り	書くこと		活動の観察	ワークシート等	インタビュー	インタビュー	ディスカッション	プレゼンテーション	スピーチ	ライティング	エッセイ	左記以外の実施テスト		振り返りシート
Lesson 1 - Water Crisis 【単元の目標】 どのように水を集め、貯蓄するかを考える。	7	知	○				・インドの水不足についての記事を読んで、要点を理解している。												○
		思	○	○	○		・日常生活でいつ水を使っているか、日本の水事情について考えることができる。	○			○								○
		態	○		○	○		・発表に主体的に取り組んでいるか。	○	○		○							
Lesson 2 - Palm Oil 【単元の目標】 パームオイルがどのように日常生活に影響するかを考える。	7	知	○				・マレーシアの女の子の話を読んで、要点を理解している。												○
		思	○		○		・話に出てくる登場人物の立場に立ち、気持ちや考えを推し量ることができる。	○				○							○
		態	○		○	○		・発表に主体的に取り組んでいるか。	○	○			○						
Lesson 3 - Plastic Waste 【単元の目標】 プラスチックは地球の生物を幸福にするか否かについて考える。	8	知	○				・海のプラスチックゴミが、食物連鎖で危険なものになっていることを理解している。												○
		思	○	○	○		・プラスチックゴミを減らすにはどうしたらいいのか考えることができる。	○				○							○
		態	○		○	○		・発表に主体的に取り組んでいるか。	○	○			○						
Lesson 4 - Refugees 【単元の目標】 助けを必要としている人に、どのくらい犠牲になれるか考える。	6	知	○				・難民の方について書かれた話を読んで、要点を理解している。												○
		思	○		○	○	・難民になったらどうするか考えることができる。	○				○							○
		態	○		○	○		・発表に主体的に取り組んでいるか。	○	○		○							
Lesson 5 - Natural Disasters 【単元の目標】 どのようにして自然災害から復興できるのか考える。	8	知	○				・災害にあった人の話を読んで、要点を理解している。												○
		思	○	○	○		・災害非常時に持ち出すものについて考えることができる。	○				○							○
		態	○		○			・発表に主体的に取り組んでいるか。	○	○			○						
Lesson 6 - Gender Equality 【単元の目標】 日本は男女平等な社会であるか考える。	7	知	○				・男女の偏見にまつわる話を読んで、要点を理解している。												○
		思	○				・男女の役割について考えることができる。	○				○							○
		態	○	○	○			・発表に主体的に取り組んでいるか。	○	○			○						
Lesson 7 - Virtual Water 【単元の目標】 日本がどれ程の水を外国から輸入しているのか考える。	7	知	○			○	・水にまつわる話を読んで、要点を理解している。												○
		思	○		○	○	・仮想水について考えることができる。また、水にまつわる問題の解決策を探ることができる。	○					○						○
		態			○	○		・発表に主体的に取り組んでいるか。	○	○				○					
Lesson 8 - Sustainable Society 【単元の目標】 どのようにパーム油が作られ、使われるのか考える。	6	知	○				・パームオイルについて書かれた話を読んで、要点を理解できている。												○
		思	○		○		・自分たちが環境保全に貢献できることを考える。	○					○						○
		態	○		○	○		・発表に主体的に取り組んでいるか。	○	○			○						
Lesson 9 - Zero Plastic 【単元の目標】 プラスチックを減らす方法を考える。 Lesson 10 - Refugees in Recent Years 【単元の目標】 なぜ日本は難民を受け入れないのか考える。	6	知	○				・シンガポールのある食料品店で行われている取り組みに関する話を読んで、論点を理解できている。												○
		思	○	○	○		・杉原さんの話と難民の方の話を読んで、要点を理解できているか。	○	○			○							○
		態	○		○	○		・環境に優しい行動を考えるとできる。移民を受け入れるかどうか自分の意見をまとめることができる。	○	○			○						
Lesson 11 - Disaster Reduction 【単元の目標】 自然災害が起きたときに、どのように身の安全を守るかを考える。 Lesson 12 - Gender equality is the top priority of global issues 【単元の目標】 男女平等社会を促すにはどうすべきか考える。	7	知	○			○	・東日本大震災の話を読んで、要点を理解している。												○
		思	○				・男女平等に関する話を読んで、要点を理解している。	○	○				○	○					○
		態	○			○	○	・自然災害に対してどのような対策を講じるかを考える。自分が男女に対する偏見をどの程度持っているかを考える。	○	○				○	○				
		態	○			○	・発表に主体的に取り組んでいるか。	○	○				○	○					

令和6年度 情報Ⅰ シラバス

教科	科目	単位	学年・類型	教科書名	発行所名	
情報	情報Ⅰ	2	3年	最新 情報Ⅰ	実教出版	
科目の目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。</p> <p>(2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>					
科目の評価の観点及びその趣旨	1 知識・技能	2 思考・判断・表現		3 主体的に学習に取り組む態度		
	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。		情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。		
単元及び学習内容		配当時間	観点	観点別評価規準	評価方法	実施予定時期
第1章 情報社会と私たち (1)情報社会		2	知	・データ、情報、知識の意味と相互の関係について説明することができる。	・ワークシート ・レポート ・行動観察 ・定期テスト	4 月上旬
			思	・情報の特性を活用した事例と、情報の特性によって生じる事例をあげることができる。		
			態	・情報社会の現状についてインターネットなどで調べようとしている。		
(2)情報社会の法規と権利		4	知	・知的財産権、産業財産権と著作権について説明することができる。	・ワークシート ・レポート ・行動観察 ・定期テスト	4 月 4 月 下旬 下旬
			思	・著作物を扱うとき、著作権上注意すべき点を挙げることができる。		
			態	・情報社会の法規と権利の観点から、実生活を見直し、改善しようとしている。		
(3)情報技術が築く新しい社会		2	知	・社会の中の情報技術の仕組みについて、理解することができる。	・ワークシート ・レポート ・行動観察 ・定期テスト	5 月上旬
			思	・情報技術の活用により加害者にならないための注意点や被害者にならないための対策方法を挙げることができる。		
			態	・情報技術を社会の問題解決に役立てる方法を提案することができる。		
第2章 メディアと情報デザイン (1)メディアとコミュニケーション		4	知	・さまざまなメディアを分類・説明することができる。	・ワークシート ・レポート ・行動観察 ・定期テスト	5 月 5 月 下旬 下旬
			思	・コミュニケーションの目的に沿ったメディアを選択することができる。		
			態	・メディアから収集する情報について、批判的な視点も使いながら、読み解こうとする態度を身に付けている。		
(2)情報デザイン		2	知	・文字、図形、音声、静止画などの各表現メディア、情報メディア、伝達メディアの特性についてそれぞれ説明することができる。	・ワークシート ・レポート ・行動観察 ・定期テスト	6 月上旬
			思	・情報伝達やコミュニケーションを促進するための情報デザインの工夫について、提案することができる。		
			態	・効果的なコミュニケーションや問題解決のために、主体的に情報を整理し、わかりやすく伝達する努力をしようとしている。		
第3章 システムとデジタル化 (1)情報システムの構築		3	知	・コンピュータの構成や計算の仕組みについて説明することができる。	・ワークシート ・レポート ・行動観察 ・定期テスト	6 月中旬
			思	・コンピュータの計算の仕組みについて、順序立てて説明することができる。		
			態	・コンピュータを構成する装置とその性能について興味・関心を示し、自分で調べようとしている。		
(2)情報のデジタル化		6	知	・デジタル情報の概念を理解し、デジタル化に関わる原理や計算方法を説明することができる。	・ワークシート ・レポート ・行動観察 ・定期テスト	6 月 7 月 下旬 中旬
			思	・アナログとデジタルを比較し、その特徴を適切に説明できる。		
			態	・情報のデジタル化について、より深く理解しようとしている。		

第4章 ネットワークとセキュリティ (1)情報通信ネットワーク	3	知	・通信方式の種類やその違い、インターネット通信の階層構造や各プロトコルの働きについて説明することができる。	・ワークシート ・レポート ・行動観察 ・定期テスト	9 月 上 旬
		思	・効率よくデータを送るための圧縮の仕組みについて、説明することができる。		
		態	・実際に利用しているネットワークの構成について自ら調べ、問題を指摘してネットワークの改善につなげようとしている。		
(2)情報セキュリティ	4	知	・情報セキュリティに関わる脅威を理解し、その対策方法を説明することができる。	・ワークシート ・レポート ・行動観察 ・定期テスト	9 月 中 旬
		思	・情報セキュリティの確保に向けて、目的に応じて、適切な方法を選択することができる。		
		態	・情報セキュリティを維持するための対策を自ら進んで行うとともに、周囲と対策方法を共有し、改善しようとしている。		
第5章 問題解決とその手法 (2)データの活用	8	知	・表計算ソフトで統計処理に用いる関数を活用してデータを処理し、グラフ化することができる。	・ワークシート ・レポート ・実習課題 ・行動観察	9 月 下 旬 、 1 0 月 下 旬
		思	・問題解決の目的に応じて、データ分析の手法を適切に選択し、分析結果を効果的に表現する力がある。		
		態	・問題解決のためのデータ分析を、試行錯誤しながら粘り強く行うことができる。		
(3)モデル化	5	知	・モデル化の基本的な手順について、問題解決の目的に応じて、適用する要素を省略したり変更したりする必要があることを説明することができる。	・ワークシート ・レポート ・行動観察 ・定期テスト	1 1 月 上 旬 、 1 月 中 旬
		思	・モデル化の目的を明確にして適切にモデルの構造を決定し、モデルを数式などで表現することができる。		
		態	・現実の現象についてのモデル化に関心をもち、自ら進んでモデル化を試みるなど、主体的に学習に取り組んでいる。		
(4)シミュレーション	5	知	・確率的モデルをコンピュータでシミュレーションする意義について説明することができる。	・ワークシート ・レポート ・実習課題 ・行動観察	1 1 月 下 旬 、 1 2 月 上 旬
		思	・表計算ソフトの関数を適切に選択・活用して、確率的モデルのシミュレーションをいくつか実行することができる。		
		態	・具体的な事象のシミュレーションに関心をもち、シミュレーションを用いた問題解決を意欲的に取り組むことができる。		
第6章 アルゴリズムとプログラミング (1)プログラミングの手法	5	知	・アルゴリズムの基本制御構造(順次、選択、反復)の違いについて説明することができる。	・ワークシート ・レポート ・行動観察 ・定期テスト	1 2 月 中 旬
		思	・簡単なアルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現できる。		
		態	・問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に、主体的に取り組んでいる。		
(2)プログラミングの実践	5	知	・変数を利用し、選択構造や反復構造を用いたプログラムを作成することができる。	・ワークシート ・レポート ・実習課題 ・行動観察	1 月 上 旬 、 1 月 中 旬
		思	・問題解決のアルゴリズムにしたがって、基本制御構造を使用して適切かつ効率的にプログラムを作成することができる。		
		態	・問題解決のためのアルゴリズムを考え、粘り強く試行錯誤しながらプログラムを作成することができる。		
第2章 メディアと情報デザイン (3)情報デザインの実践	6	知	・文書の基本的なレイアウト、文字のフォントやスタイルなどについて理解するとともに、実際に報告書やレポートを作成することができる。	・ワークシート ・レポート ・実習課題 ・行動観察 ・発表	1 月 下 旬 、 2 月 上 旬
		思	・報告者やレポートの目的に沿って、情報を収集し、文書の構成やレイアウトなどの体裁を考えながら、読む人が理解しやすい文書を作成することができる。		
		態	・わかりやすい報告書やレポートを作成するため、文書の構成やレイアウトについて自ら進んで工夫、改善をしようとしている。		
第5章 問題解決とその手法 (1)問題解決	4	知	・問題や問題解決の意味、問題解決の手順について説明することができる。	・ワークシート ・レポート ・行動観察 ・定期テスト ・発表	2 月 中 旬
		思	・個人あるいはグループで解決案を検討し、制約条件の中で最適な解決案を判断して決定できる。		
		態	・試行錯誤しながら、粘り強く問題の発見・解決に取り組んでいる。		

令和6年度 「総合的な探究の時間」

教科科目		単位	学年・類型	教材
総合的な探究の時間		1	第3学年	ワークシート、新書、新聞記事、インターネットなど
目標	・1, 2年生での活動内容を踏まえ、興味・関心のある学問を調査し探究する態度を養う。			
時間	内容	配当時間	学習方法	評価の観点と評価方法
1	オリエンテーション	1	・第3学年の「総合的な探究の時間」の目的及びねらいを聞き、各自の目標・到達点を設定する。	<評価の観点> ○自己理解力 ○キャリアプランニング能力 ○主体的な学習態度 ○社会への関心・社会人基礎力 <評価の方法> ○活動記録 ○行動観察 ○発表内容 ○レポート内容
2～20	探究活動	19	・2年次までの総合的な探究の時間を踏まえて、自身が興味を持ち、探究するテーマを決める。 ・決めたテーマについて文献やインターネット、新聞等で調査、研究をする。	
21～25	探究活動のまとめ・発表	5	・学問研究での成果を踏まえ、自分の進路と社会もんだいを関連させて考察し、活動のまとめを発表する。	
26～34	大学・職業調べ	9	・自身の進路希望に応じて、志望大学や志望する職業について、試験等の制度を調べる。 ・1年間の活動を振り返り、自分の将来や関心についてまとめる。	
35	1年の振り返り	1	・1年間の活動を振り返り、自分の将来や関心	
年間授業時間		35		

